

第七十五回
貴族院

所得稅法改正法律案特別委員會議事速記録第二號

昭和十五年三月二十日(水曜日)午前十時

十二分開會

○委員長(伯爵林博太郎君) 是ヨリ所得稅法改正法律案外三十六件ノ特別委員會ヲ開

會致シマス、内務大臣ガ見エマシタカラ大河内君ニ御許シ致シマス

○子爵大河内輝耕君 私ハ内務大臣ニ對シ度ガ御改正ニナルサウデアリマスガ、之ニ付キマシテ、其ノ中ニ經濟團體ヤ、教育團體ノ代表者ヲ入レルト云フヤウナ噂ガアル、サウ云フコトハ私ハナカラウト思ヒマス、サウ云フコトハナインオデ、若シ入レルトシテモ今ノ代表者以外ノ、今ノ選舉ニ依ッテ出

テ來ル議員以外ニ何カ入レルトシマスレバ、サウ云フ教育會ノ長老デアルトカ、或ハ經濟界ノ長老デアルトカト云フ方ヲ入ルノ

頭ガ入ルトカ、產業組合ノ理事者ガ入ルトカ、或ハ商工組合ノ理事者ガ入ルトカ、サ

ウ云フヤウナ「インテレスト」ヲ代表スルト云フ意味デハナカラウト思ヒマスガ、其ノ點ハドウ云フ御考デゴザイマスカ

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 御承知ノヤウニ市町村制等ニ付テハ委員會ニ於テ答申ヲ得テ居ルノデアリマス、其ノ答申ノ中デ

一番ニ矢張リ問題ニナッテ居ルノハ、特別議員申シマスカラ入レルノガ宜イカ、入レ

テノイノガ宜イカ、又特別議員ノ性質ハ如何

ナルモノカト云フヤウナノガ一番問題ニナッテ居ル、ソレデ特別議員ヲ入レルト云フ

趣旨ハ私内容ヲヨク知リマセヌガ、只今御

話ニナルヤウナ職能代表ノヤウナ意味デハ

ナイ、斯ウ實ハ考ヘテ居ルノデアリマシテ、所謂地方ノ長老デアルトカ、自治ニ貢獻シ

ダ人ダトカト云フヤウナ、其ノ人ガ地方自治ニ直接ニ關係ガアルト云フ點デ、地方自

治機關ノ所謂強化ヲ圖ル意味合ニ於キマシテ入レルノデアツテ、職能代表ノ意味ハ含レ

テ居ナインダト私ハ考ヘテ居ルノデアリマスカ

○子爵大河内輝耕君 サウ致シマスト、ソ

レハ縣カラ任命ニナリマスノデ、選舉デハ

ナイノデスカ

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 答申ノ内容

ハ選舉デナインウデゴザイマス

○子爵大河内輝耕君 ソレデ内務省ニ於テモ大體サウ云フ御考ダト思ッテ宜シウゴザイマスカ

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 此ノ寄附金

ヲ今ノ稅額カラ引イタラ宜イデヤナイカト

云フ議論ハ、是ハ衆議院ニ於テモ盛ニアッタ

ノデアリマス、是ハ御尤モノコトダグト思ッテ

居リマスガ、今度ハ地方稅制ノ關係ト致シ

ニ付テハ非常ナ皆サン關心ヲ有ッテ居ラレル

テヤルノダスウ云フ風ニ解釋シテ宜シウゴザイマスカ

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 云フ議論ハ、是ハ衆議院ニ於テモ盛ニアッタ

ノデアリマス、缺損ト同ジヤウ

リマス、デ此ノ地方稅制ヲ施行スル上ニ於

キマシテモ、此ノ寄附金ノ取締ト云フコト

ニ付テハ非常ナ皆サン關心ヲ有ッテ居ラレル

ノデアリマス、是ハ御尤モノコトダグト思ッテ

居リマスガ、今度ハ地方稅制ノ關係ト致シ

マシテ此ノ町村ノ方ハ幾ラカ餘裕ノアル財

源ヲ與ヘマスシ、且又目的稅、或ハ受益分

擔ノ制度等ヲ廣ク認メマスカラ、其ノ點ニ

於テ從來寄附ニ依ッタ部分モ所謂目的稅、又

ハ今ノ受益稅ノ關係ニ於テ稅トシテ認メル

場合ガアリマスルノデ、幾ラカソコハ矯正

サレルノジャナイカト思ハレマス、但シ折

角此ノ制度ヲヤリマシテモ、從來ノ通り寄

附ヲ強制スルヤウナコトニナリマシテハ今

大河内君ノ御心配ノ通リノ結果ヲ來シマス

ト思フ、稅ヲ取ツテヤラナイヤウナ仕事ナラバ御見合セニナルガ宜イ、サウシテドウシ

テモ寄附金デナケレバ立ツテ行カナイト云

フコトデアリマスレバ、ソレハ内務大臣ノ

許可ヲ得ルコトニスル、其ノ代リ拂ツタモノ

ヲ地方稅ノ納付額カラソレダケ引クト云フ

位ノコト迄行ツテ宜イカト思フノデスガ、少

云フ手續ヲ執ラナイデ、懇談ヅクデ行ク場

合ガアルノジャナイカト考ヘテ居ルノデア

リマス、デ此ノ地方稅制ヲ施行スル上ニ於

キマシテモ、此ノ寄附金ノ取締ト云フコト

ニ付テハ非常ナ皆サン關心ヲ有ッテ居ラレル

ノデアリマス、是ハ御尤モノコトダグト思ッテ

居リマスガ、今度ハ地方稅制ノ關係ト致シ

マシテ此ノ町村ノ方ハ幾ラカ餘裕ノアル財

源ヲ與ヘマスシ、且又目的稅、或ハ受益分

擔ノ制度等ヲ廣ク認メマスカラ、其ノ點ニ

於テ從來寄附ニ依ッタ部分モ所謂目的稅、又

ハ今ノ受益稅ノ關係ニ於テ稅トシテ認メル

○子爵大河内輝耕君　此ノ次ノ質問ハ少シ
誇クナリマスガ、地方費ト國庫トノ負擔區
分デスガ、地方費ノ負擔ヲ地方ノ團體ノ意
思ニ拘ラズシテ負擔ヲ増加セシメル場合ガ
澤山アリマス、其ノ一つハ法律ヲ以テ明定
スルモノデアリ、或ハ勅令ヲ以テ明定スルモ
ノデアル、ソレカラ第三ニハ法律ニモ勅令
ニモ何ニモ依ラナイデ豫算ノ隅ツコニ書イ
テアルヤウナ場合モ往々生ジテ來ル、第一
番ハッキリシテ居ル、第二ノ場合ハ往々ハッ
キリシナイ、議會ハ知ラナイ、議會ノ議員
モ知ラナイ、ソレカラ地方團體モ無論知ラ
ナイ、其ノ内ニ自分ノ方ノ負擔ガ殖エテ居
ルト云フヤウナコトガアリマス、ソレカラ
第三ノ場合ニ至ツテハ實ニヒドイ話ナンデ、
議會モ知ラナイデ、此ノ豫算ニ書イテアル
ト云フノデスガ、ソコ迄分ラズ、ドレダケ
地方團體ノ負擔ニナルカ、サウ云フコト迄
ハ書イテナイノデスカラ、唯斯ウ云フ施設
ヲスルトシカ書イテナイカラ、ソコ迄一々
調べルノニ議員モ調ベヤウモナイ、地方團
體モ無論サウ云フコトニ付テハ豫メ相談ヲ
受ケル譯デモ何デモナニ、甚シキニ至ツテハ
内務當局者モ知ラナイ、斯ウ云フコトヲ他
ノ省カラ地方團體ニ命ジタカト云フコトヲ
事後ニナツテ發見スルヤウナ始末ガ出來ル、
斯ウ云フコトヲ始終ヤツテ居リマシテハ、
折角地方稅ヲ斯ウ御整理ニナツテモ何ニモ
ナラナイ、地方稅整理ノミナラズ結局是ガ
國庫ニ及ンデ來ル、斯ンナ風ニ分與稅ダ還
付稅ダトヤカマシクナツタ因ハ、委任事務ヲ
無暗ニ殖ヤシタカラデアリマス、ドウシテ
モ斯ウ云フコトニナツテシマハナケレバナラ

ナクナッテ、ソレデハ國家トシテ國稅ヲ整理シタ趣旨ニモ悖ルノデアリマス、兎ニ角地方自治ヲ認メテ置キナガラ自治體ノ意思ニ拘ラズ仕事ヲ押シツケルト云フヤウナコトハ甚ダ面白クナイ、之ニ付テハ色々提案モアリマシテ、衆議院デモ出マシタガ、委任事務ヲヤル場合ニハソレダケノ金ヲヤッタラ宜イデヤナニカ、私共ハ是ハ良イ案ダト思ツテ居リマスガ、衆議院デ當局者ハ餘リ御賛成デナイヤウデアリマスカラ、此處ニハ繰返シマセヌガ、ソレニシテモ斯ウ云フ地方團體モ知ラズ、甚ダシキニ至ツテハ内務大臣サヘ知ラナイト云フコトデ、地方團體ノ負擔ガ殖エテ行クト云フコトハ甚ダ面白クナイ、將來ハーツスウ云フコトハ議會ニモハッキリサセル、無論内務省デハ承知シナクチヤイカヌ、事ニ依リマシタラ内務省ガ、國庫豫算ノ査定ニ參與スルト云フヤウナコトモ一ツノ方法ヂヤナイカト思ヒマス、今ノヤウニ、今ノヤウニト云ツテハ甚ダ失禮デスガ、今ハソンナコトガナイデセウガ、從來ノヤウニ、一般ハサウデハナイデスガ、此ノ問題ニ付キマシテ内務省ガ無視サレタリ、議會ガ無視サレタリスルコトハ、事柄ソレ自體ガ不穩當ナルノミナラズ、税制整理カラ云ツテ甚ダ面白クナイ、年來ノ問題デアリマスケレドモ、此ノ際ハッキリ建前ヲ定メテ頂キタイ、何レデゴザイマスカ

ヘタノデアリマスルガ、殘ル所ノ問題ハ昨
今地方、殊ニ下級自治體ニ於テ、一番困ッテ
居ルモノハ國ノ委任事務ニ屬スル問題デア
ルノデアリマス、其ノ中デ今仰シヤル通り
ニ、法律デ市町村ニ委任スル場合モアリマ
スシ、又道路ノ如ク地方廳ニ豫算ノ上デ國
庫ガ之ヲ補助シテ、サウシテ此ノ地方ガ一
部ヲ分擔ヲシテ仕事ヲスルト云フ場合モア
リマスシ、ソレデナクテ、府縣邊リノ必要
ニ應ジマシテ、更ニ市町村ニ或モノヲ言付
ケルト云フヤウナ場合ガアルノデアリマス、
ソレガ爲ニ地方ニ、下級自治體ニ於ケル國
ノ委任事務ト云フモノハ、非常ニ分量ガ多
クナツテ、是ガ爲ニ地方廳ハ困難ヲ感ジテ居
ルト云フコトハ、事實其ノ通リダト思ヒマ
ス、之ヲ救濟スル爲ニ、一面ニ於テ地方廳
ノ人員ヲ殖ヤスト云フコトモ、豫算ノ上ニ
御協賛ヲ得テ居ルヤウナコトデアリマスカ
ラシテ、大體ニ於テ其ノ委任ヲシマス場合
ニハ、中央カラ同ジヤウナコトヲ各省カラ
言ツテ行ク場合ガ多イノデアリマス、而モ此
ノ負擔ベカリデナシニ、調査等ノ點ヲ考ヘ
テ見マスト實ニ地方廳デハ出來サウモナイ
細カイ調査ヲ、而モドコカデ連絡的ニ之ヲ
通牒シテヤレバ宜イノデスケレドモ各省ノ
必要ニ應ジテ勝手ニ通牒ヲシテ行クト云フ
場合ガ多イノデ、地方廳ハ其ノ調査ニ其ノ
日モ足ラズト云フヤウナ事實ニアルラシイ
事務等ニ付テハ、豫メ地方ニ於テ整理統合
ヲ致シマシテ、成ルベク重複ヲ避ケルヤウ
ナ方法ヲ採ルコトニ決シテ居ルノデアリマ

マスケレドモ、是ハ今大河内君ノ言ハレタ
通リニ、國ノ委任事務ヲヤル時分ニハ必ず
國費ヲ之ニ伴ウテヤレト云フ事柄ガ各方面
ニ於テ論議サレテ居ルノデアリマス、原則
的ニハサウデナクチヤナラヌモノダト斯ウ
思ヒマスガ、併シ細カニ委任事務ノ内容ヲ
調べテ見マスト、ドレダケノ部分ガ純粹ノ
國ノ事務デアリ、ドレダケノ部分ガ地方
ニ直接ノ利害關係ガアル事務デアルト云
フ、區分等ハナカヽムツカジイノデア
リマスルノデ、ソレニ於テハ今回委任事
務ニ對スル、國ノ費用ノ分擔ト云フ事柄ヲ
決定スル迄ニ至ラナカツタノデアリマス、
此ノ點ニ付キマシテハ何レニ致シマシテ
モ、廣汎ニ亘リマシテ國ノ負擔スベキモ
ノ、地方費ノ負擔スベキモノノ區分ヲハッキ
リシナケレバナラスト考ヘテ居ルノデアリ
マス、今回ハ取敢ズ其ノ最モ大イナル所ノ
モノニ付テノミ、改善ヲ加ヘタニ過ギナイ
ノハ甚ダ遺憾デアリマスケレドモ、是ハ引
續イテ地方制度ノ問題ニモ關係致シマスル
ノデ、地方制度ノ調査ニ連關ヲ致シマシテ、
其ノ點ニ及シテ見タイト考ヘテ居リマス
○子爵大河内輝耕君 今回ノ豫算ノ編成ニ
際シマシテ、サウ云フコトハ内務大臣ガ十
分ニ御調査ニナル、今私ハ極端ナコトヲ云
ヘバ、國庫ノ豫算ノ編成ニ當シテハ、地方費
ノ關係ガ非常ニ深イ、内務當局モ之ニ參加
查定ノ責任ヲ分ツト云フヤウナ仕組ニハイ
カヌモノデセウカ

ガ、内務省ノ土木事業ナドヲ見マスルト、非常ニ多イノデアリマス、是ハ矢張リ間接ニ内務省ガ大藏省ニ要求シテ、大藏省ト折衝シテ、結局或程度ニ止メルト云フヤウナコトニ相成リマスルノデ、國ノ今ノ大キナ問題ニ付キマシテハ今日ニ於テモ尙ホ内務省ガ間接ニ國ノ豫算ヲ定メマスル上ニ、關與シテ居ルト云フ形ニハナシテ居ルノデアリマス、ソレ以上ニ深ク内務省ガ之ニ携ルト云フコトハ、如何デアリマセウカ、是ハ特ニ考慮ヲ要スル問題デヤナカラウカ、斯ウ思ハレルノデゴザイマズ。

○子爵大河内輝耕君 内務省ガ御提案ニナツタコトナラバ内務省ガ御承知デアルカラ、ソレデ宜イノデスケレドモ、内務省以外カラ提案サレタコトデ、往々内務省ガ丸デ抜キニナシテシマフコトガ非常ニ多イ、此ノ事ヲ私ハ申シタ、ソレヲ一々今デスラ大藏省一人デヤッテタツテ、豫算ガアンナニ厄介ナノニ、此ノ上一々内務省ニ相談シテ居るヤウデハ困ルト云フ御話デアルナラバムヲ得マセヌカラ、ソレハ尙御研究ヲ願シテ置クコトニシテ、少クモ斯ウ云フコトダケ願ヒタク、今回ノ豫算ヲ提出スルニ當ツテ、地方團體ノ負擔ガ幾ラ増スモノデアルカト云フコトハ、明瞭ニ議會ニ分ルヤウニシテ頂キタク、参考書ノ形式デモ宜シ、ドンナモ宜イト思フ、是ハ此ノ前潮内務大臣ノ時形式デモ宜イガ、ソレダケノ御注意ガアッテナモノデスカラ、恐縮シテ差控ヘテ居ルノデアリマス、從ツテ今度ノ豫算ニ付テ地方費

ガドレ位殖エルカト云フコトハ、議員モ知ラナケレバ、無論地方團體モ知ラナイ、惡リマス、ソレ以上ニ深ク内務省ガ之ニ携ルト云フコトハ、如何デアリマセウカ、是ハ特ニ考慮ヲ要スル問題デヤナカラウカ、斯ウ思ハレルノデゴザイマズ。

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 只今ノ御話御尤モナ點ガアルノデアリマス、例へバ砂防ノ例ヲ取りマスルト、農林省モ砂防ヲヤル、内務省モ砂防ヲヤル、サウシテ是等ノ點ニ於テ理窟ノ上カラ見レバ全ク目的ハ違ツテ居ルノデアリマスケレドモ、或場合ニ於テハ兩方ニ於テドツチガドツチダカ分ラヌヤウナ場合モ生ジテ來ルノデ、是等ノ場合合ニ於テハ其ノ關係省トヨク協調ヲ取ッテ行カナケレバナラヌコトハ無論ノコトト考ヘテ居リマス、ソレカラ、又サウ云フヤウナ、内務省ノ方デアリマスレバ是ダケノ地方ニ今度ハ斯ウ云フ負擔ガ掛ルト云フコトハ直グ分リマス、併シ各省ニ於テ今言タ通リニ、砂防ノ如キモノモアルノデアリマス、併シはデスネ、今御話ノヤウナ風ニ、内務省ガ地方行政ヲ監督シ、又地方ノ自治體ノ財政上ノ狀況ヲ見ル上ニ於テモ必要ナルコトデアルト思ヒマスルノデ、御説ニ從ヒマシテ來年ノ議會ニ於キマシテハ出來ルダケトニ致シマセウ

○子爵大河内輝耕君 チヨツト抜カシマシタガ、モウ一つ伺ヒマス、今度ハ三部制ヲ御慶メニナルト云フコトデスガ、是ハマニアリマスノナルト云フコトハ結構デスガ、實行ニ色々ナ具體的ナコトヲ聞イテ居リマスガ、

トモ起リハシナイカトマア素人ハ考ヘラレマスガ、併シソレハ當局者トシテハサウ云フ點ハ十分ニ御調査ニナシテ、大丈夫圓滿ニ行ハレルト云フ御考カラ出シタンダラウト思ヒマスガ、サウ承知シテ宜シウゴザイマスカ。

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 只今ノ御話御尤モナ點ガアルノデアリマス、例へバ砂防ノ例ヲ取りマスルト、農林省モ砂防ヲヤル、内務省モ砂防ヲヤル、サウシテ是等ノ點ニ於テ理窟ノ上カラ見レバ全ク目的ハ違ツテ居ルノデアリマスケレドモ、或場合ニ於テハ兩方ニ於テドツチガドツチダカ分ラヌヤウナ場合モ生ジテ來ルノデ、是等ノ場合合ニ於テハ其ノ關係省トヨク協調ヲ取ッテ行カナケレバナラヌコトハ無論ノコトト考ヘテ居リマス、ソレカラ、又サウ云フヤウナ、内務省ノ方デアリマスカ、地方債ト申シマスカ、其ノ關係ニ於テ郡部ノ方ガ約七千萬圓程アリ、市ノ方デハ千萬圓程アル、之ヲドウ云フ風ニ調節シテ吳レルカト云フコトガ一番問題ニ實ハナシテ居ルノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ他ノ場合ニ於テモ御説明ヲ申シ上げマシタ通リニ、成ルベク此ノ負擔ノ均衡ヲ圖リマスヤウナ風ニ知事ヲ中心ト致シマシテ出来ルダケノ用意ヲ致シテ居ルノデアリマス、サウシテ是ハ四月一日カラ實行スルノデアリマス、大體ニ於テ是カラ話合ヲ地方的ニ進ヌテ參ルノデアリマスルケレドモ、七八月頃迄ニ話ガ附キマスレバ、丁度配付稅ノ配付ノ最後ノ決定ガ其ノ時分迄掛ルサウデアリマスカラ、稅ノ方ノ關係カラ云ヘバ、配付稅ノ配付ノ方法ニ支障ヲ生ズルト云フ事柄ガ三部制ノ存在ノ一番深イ理由ニナリマスノデアリマス、其ノ間ニ話ヲ整ヘマシテ、圓滿ニ一ツ此ノ問題ヲ解決シテ行キタイト、斯ウ實ハ思ダテ居ルノデアリマス、ソレデ從來京都、廣島等ニ於キマシテ三部制ヲ廢スル時分ニ數年ノ猶ヨク一ツ御研究願シテ置キタイト存ジマス。

○委員長(伯爵林博太郎君) 橋本君ノ御質

○橋本辰二郎君　チヨット内務大臣ニ對シテデスカ
簡單ニ……只今大河内子爵ノ御質問ノ中ニ
寄附金ニ關スル問題ガアリマシタ、私モソ
リマス、此ノ各府縣ヨリ出身ノ護國ノ英靈
ヲ祀ル爲ニ、各府縣ニ護國神社ヲ創設スル
ト云フ法律ガ昨年出來マシタノデアリマス
ルガ、其ノ以後各地ニ於キマシテ、護國神
社ヲ拵ヘナケレバナラスト云フ氣分ガ大分
起リマシテ、今日デハ他ノ府縣ニ遷レテハ
イケナイカラ早ク拵ヘタイト云フ風ガチ
ヨット見受ケラレル點ガアルノデアリマス、
而シテ之ニ付キマシテハ多額ナル矢張リ寄
附金ヲ要求致シテ居ルノデアリマスルガ、
私等トシテハ、其ノ地方ヨリ出身シタ護國
ノ英靈ヲ其ノ地方ニ祀ルト云フコトハ最モ
是ハ好マシイコトニ思ツテ大變贊意ヲ表シ
テ居リマス、併ナガラ護國神社ト云フモノ
ハ左程御粗末ナモノデアッテハイケナイ、餘
程矢張リ莊嚴デナケレバナラナイ、又相當
輪換ノ美モ極メテ置カナケレバナラナイト
思フノデアリマス、然ルニ從ッテ其ノ施設ニ
對シマスル費用ト云フノモ莫大ナル額ニ上
リマシテ、寄附金ハナカヽ多イヤウニ見
受ケマス、ソレハ宜イト致シマシテ、今日
ノ此ノ時局柄ニ於キマシテ、勞力モ不足シ
テ居リマス、物資モ亦缺乏致シテ居リマス
此ノ際ニ、争シテヤルト云フコトハドウモ當
ヲ得タモノデナイト思フノデアリマシテ、
未ダ時局モ終局致シテ居リマセヌ今日デ
アリマスカラ、是ハ時局ノ終ツタ後ニ讓ツタ
方ガ經費モ非常ニ少クテ濟ミマス、半分ノ
價格ヲ以テ立派ナモノガ出來ルノデハナカ
ラウカ、今強ヒテサウ云フモノヲ造リマス

ト、金バカリ使ヒマシテ、御粗末ナモノガ
出来ルト云フヤウニ私ハ考ヘマスノデ、内
務大臣ト致シマシテ、各府縣ニ競ツテコウ
ニデモナルト云フコトハ出來マスマイカ、
之ニ對スル御意見ヲ承リタイト思ヒマス
○國務大臣（伯爵兒玉秀雄君）護國神社ノ
コトデアリマス、アノ護國神社ガ唱ヘラレ
マシタ當初ニ於キマシテハ、各地ニ於テ争ッ
テ此ノ護國神社ヲ造ラウト云フ氣分ガアッタ
タノデアリマスガ、護國神社ト云フ名前ヲ
付ケタ所モアリマスシ、招魂社ト云フヤウ
ナ名前デ各地デ以テ争ッテ其ノ計畫ガアッタ
ノデアリマス、斯クテハ却テ地方ノ寄附金
ヲ強要スルコトニモナリ、且又地方ニ餘リ
御粗末ナヤウナモノガ出來ルト云フヤウナ
事柄モドウカト思ヒマスノデ、今日ニ於テ
ハ一縣一社ト云フ方針ヲ堅持シテ居ルノデ
アリマス、併シ地方ニ依リマシテハ、尙二
社ヲ許シテ吳レト云フヤウナコトガアリマ
スルケレドモ、大體ニ於テハ一縣一社ト云
フコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、是ハ矢
張リ御話ノヤウナ風ニ一面ニ於テハ莊嚴デ
ナケレバナラヌガ、一面ニ於テハ餘りニ地
方ノ事情ニ副ハナイヤウナモノヲ造ルト云
スカト云フ事柄ハハッキリ致シマセヌケレ
ドモデス、今マデ事變ノ中途ニアリマスル
ノデ、急イデ之ヲ持ヘナケレバナラヌト云
フコトモドウカ知ラヌト思ヒマスルノデ、
篤ト實情ヲ調べマシテ只今ノ御趣旨ニ副フ
ヤウナコトニ一つ指導スルコトニ致シマセ

○橋本辰二郎君 私ノ申上ゲタコトヲ幾ラカ御採擇下サルヤウナ御話ヲ承リマシテ私モ満足致シマス、尙此ノ寄附金ヲ所得ヨリ控除スルト云フコトハ、御承知ノ通り、衆議院ノ増税案ノ委員會ニ於キマシテモ相當問題ニナツカコトデアリマスガ、私ハ此ノコトハモウ早クカラ主張致シテ居リマシテ、事實地方ニ居リマシテ、地方ノ慈善團體トカ、又ハ文化團體トカ云フモノガ近來寄附金方非常ニ窮屈ニナリマシテ、其ノ事業ノ經營ニモ困ヅテ居ルヤウナ有様ガアリマスノデ、先程大臣ノ御話ノアリマシタ私ノ關係トカ、友人トカ、サウ云フ關係ノ下ニ寄附ヲ出スト云フコトハ姑ク措キマシテ、苟モ縣知事ナリ國ノ許可ヲ受ケタ種類ノ寄附ニ付キマシテハ、是ハ矢張リ所得モ控除スルト云フ途ラ御拓キニナル方ガ私ハ非常ニ宜イコトデハナカラウカト思ヒマス、之ニ依テ國庫ノ蒙ムル損害ト云フモノハ大シタコトデハナカラウカト思ヒマス、寄附金ヲ一萬圓致シマシテモ、之ニ對スル所ノ國庫ノ收入ト云フモノハ其ノ一割カソコラニ過ギナノイデアリマシテ、本人ニ於キマシテモ、稅金ノ關係カラシマスト、寄附金ノ方ガ五倍ニモ十倍ニモ當ルコトガ澤山アリマシテ、斯ウ云フ寄附金ヲ獎勵スル上ニ於キマシテモ、此ノ稅ト云フモノハ、是ハチヨット除カレル方ガ非常ニ宜イコトト思ヒマス、聞ク所ニ依リマスト、是ハ大臣ニ於キマシテモ、趣意トシテハ殆ド御認ニナツテ居リマスト云フヤウニチヨット承リマシタガ、果シシテドウデアリマスルカ、兎ニ角地方ニ於テ慈善團體ヤラ色々文化團體、其ノ他ノモノガ經營難ニ陥リテ居リマスル現狀ヲ能ク御調ニナリマシテ、内務大臣

○國務大臣（伯爵兒玉秀雄君） 地方ニ於テ
兎角弊害ノアルノハ寄附金デアリマスノデ、
寄附金ハ成ルベク之ヲ抑制シテ行キタイト
云フ考ヲ持ツテ居ルノデアリマス、寧ロ法的
ニ興ヘラレタル納稅ノ義務ニ依リマシテ、
サウシテ此ノ租稅關係ニ於テ必要ナル經費
ヲ支辨スルト云フ事柄ガ合法的デアリマス
ノデ、寄附金ハ已ムヲ得ザル場合ト云フヤ
トニ致シタイト思ツテ居ルノデアリマス、
從ツテ此ノ所得ノ中カラ寄附金ヲ控除スルト
云ヒ、サウシテ寄附金ヲ獎勵スルト云フヤ
ウナコトハ篤ト考慮ヲ要スル點ガアルノデ
ヤナイカト思ツテ居リマス、大藏大臣ニ於キ
マシテモ左様ノ趣旨ヲ言ハレテ居リマスル
ノデ、此ノ點ニ對シテ大藏大臣ハ肯定シテ
居ルト云フコトハナイノデアリマスノデ、
此ノ點モ併セテ御含ミ置キヲ願ツテ置キタ
イト思ヒマス

○安宅彌吉君 簡單ニ先達テチヨット……
○委員長（伯爵林博太郎君） 内務大臣ニ質
問デスカ

本、此ノ關係……十億幾ラト云フモノニ府
縣稅ガナルノデアリマスケレドモ、是ハ昭
和十三年ヲ基礎ト致シマシテ、サウシテソ
レニ自然增收ヲ加味シテ、サウシテ其ノ府
縣ノ總額ヲ決メテ居ルノデアリマス、サウ
シテ之ヲ分賦スルコトニナツテノ居ルノデ
アリマスガ、御承知ノヤウナ風ニ此ノ還付
稅ト致シマシテハ地租、家屋稅及營業稅ヲ
還付シテ、其レニ對スル附加稅ヲ認メテ居
ル、サウシテ實際ノ財政事情等ニ應ジマシ
テ更ニ配付稅ヲ興ヘテヤルト斯ウ云フコト
ニナツテ居ルノデアリマス、ソコデ實際調べ
タ所ニ依リマスルト云フトデス、東京市ナ
リ何ナリニ於キマシテ、今日ノ收入ヨリハ
增加スト云フ結論ニナツテ居ルノデアリマ
ス、ソレカラ東京アタリヲ見マスルト云フ
ト、今ノ所得稅ノ附加稅デゴザイマスガ、
是ガ制限ノ三倍位迄モウ行ツテシマッテ居ル
ノデゴザイマスネ、此レ以上掛ケル餘地ガ
ナイト云フ迄所得稅ノ附加稅ヲ取ツテ居ル
ノデアリマス、サウ云フヤウナ事情デアリ
マスルノデ、今回ノ稅制ニ依リマシテモ、
六大都市ニ於テモ其ノ市政ヲ運用スルニ
テ毫モ差支ナイ程度ニナツテ居リマス、ソコ
デ御承知ノヤウナ風ニ今回其ノ方ニ割當テ
マシタル所ノ稅ハ伸縮力モアリマスルケレ
ドモ、一面ニ於テハ極ク收入ノ確實性モア
リマスルノデ、景氣不景氣ニ依ラズシテ確
實ナル稅源ヲ得ラレルト云フコトニナツテ居
ルヤウナ點ハナイト斯ウ云フ風ニ我々共考
ヘテ居リマス

シタガ爲ニ收入減、明年度ニ於テ六千何百萬圓デアリマシタカ、二百萬圓デアリマシタカノ不足ヲ來タス、ソレニ付テ政府トシテハ歲入歲出ノ辻謬ヲ合ハス上ニ於テドウ云フ風ノ御考ガアルカト云フコトヲ伺ッタノデアリマスガ、尙一ツ主計局長トシテ直接此ノ豫算ノ編成ノ任ニ當ラレル事務當局トシテ、ドウ云フ風ノ方法ヲ採ルノガ最モ適當デアルカト云フコトニ付テ御考ヲ伺ヒタイ、既ニモウ衆議院ニ於テ修正セラレマシテ、貴族院ニ送付ニナリマシテ、貴族院ニ於テハ目下御覽ノ通リ審議中デアリマス、果シテ衆議院ノ修正通リヲ認ムルヤ、或ハ政府ノ原案ノ方ヲ採ルヤ、ソコハマダ委員諸君ノ御考ヘ中デアラウト思フノデス、デスクカラ此ノ貴族院ニ於ケル稅革案ニ對スル見透シハ目下ノ處マダ付イテ居ラヌ譯アリマスガ、假ニ大體ニ於テ衆議院ノ修正案ガ貴族院ニ於テモ認メラレルト云フ時ニハ、明カニ生ズル歲入ノ不足ヲドウ云フ風ノ方法ヲ以テ處理ラシテ行ッタラ最モ穩當デアラウト云フヤウナ御考ニ付テ、既ニモウ御考慮中ダラウト思フノデアリマス、其ノ點ヲ事務當局トシテノ御考ヲ伺ヒタイ○政府委員(谷口恒二君) 只今八條子爵ノ御尋デアリマスガ、御話ノ通リニマダ御審議半バデアリマシテ、私事務的ノ立場カラ御答ヘ申上ガマスニ付キマシテモ、一ツノ假定ノ場合ニ付テ御答ヘ申上ゲルヤウナ形カト思フノデアリマス、假ニ相當ノ減收ヲ生ズル、只今ノ所デハ六千數百萬圓ニ達スル減收額ヲ生ズルヤウナサウ云フ修正ト云フコトガアリマシタ場合ノコトヲ假定シテ考ヘテ見マシテ、而モ只今御話ノ通リニ、

シマスト、只今ノ所ニ於キマシテハ、歳入ノ額ニ於キマシテハ見込ムコトノ出來マスル所ノ歳入ヲ總て計上致シマシタ次第デアリマシテ、若シ斯ウ云フ修正ガ成立ツト云フコトニ相成リマスレバ、六千數百萬圓ノ歳入ノ缺陷ヲ生ズルト云フコトハ明カル事柄デアリマシテ、曩ニ總豫算ノ御審議ガ濟ンデ居リマスコトト、此ノ千數百萬圓ノ減收ニ及ブ所ノ修正ト云フヲ、極ク事務的ノ立場カラ申シマスト云トハ、兩立シ難キモノデアルヤニ事務的ニハ考ヘテ居ルノデアリマス、併シナガラ處理ノ方法ト致シマシテ、純事務的ノ處理ノ方法ト云シ方ト云フコトニモソレヽ程ガアルト甲フノデアリマシテ、是迄ノ沿革、又爲サレ方等ニ徵シテ見マスト云フト、只今私ノ申上ガマシタ所謂兩立シ難キモノガ事實併行シテ行ハレタコトモ從來アッタヤニ承認シテ居ルノデアリマス、先日大藏大臣ヨリ當席ニ於テ御話シ申上ゲタト承シテ居ルノデアリマスガ、只今申シマシタヤウニ、債務のニ考ヘテ兩立セザルモノデアル、六千數百萬圓ト云フモノハ明カニ既ニ歳入ノ鉢陥ヲ生ズルノデアル、然リト致シマシテ、今直チニ其ノ缺陷ヲ補整ノ方法ヲ直チニズルト云フコトダケガ事務的ニ見テ唯一ノ方法デアルカト云フ風ニ考ヘテ見マスト云フト、總豫算ガ實行ノ過程ニ入リマシテ、將來生ズベキ諸々ノ原因ニ依リマシテ歲出額程ヲ巡リマシテ、サウシテ其ノ推移ノ致シ

方ニ依リマシテハ、今日ノ場合ニ極ク事務的ニ考ヘテ居リマスヤウナ心配ト云フモノガナシニ濟ムト云フコトモ想像出來ナイコトモナインデアリマス、只今ト致シマシテスシ、又歲入缺陷補填ノ機會ト致シマシテハ、デアリマスガ、サウ云フコトモ事實トシテ考ヘラレナイコトモナイト思フノデアリマス、又歲入缺陷補填ノ機會ニ於キマシテ歲入歲出ノ状況ノ推移ヲ徐ニ辿ッテ見マシテ、前回大藏大臣方申上ゲラレダカト思フノデアリマスガ、次ノ機會ニ於キマシテ歲入補填ノ公債ノ發行ノ途ヲ講ズル、サウ云フ方法モ亦一ツノサウ云フ方法ヲ講ジマシテ必ズシモ支障ガナイト云フコトモ亦一ツノ意味ニ於キマシテ事務的ナ考ヘ方カトト思フノデアリマス之ヲ要シマスニ、極ク極私共ノ事務的ノ立場ニ立チマスレバ、今日日歲出歲入ニ明カナ缺陷ヲ生ズルガ如キ修正ニ付テハ今直ニ修正ヲドウスルト云フコトガ一ツ考ヘラレルノデアリマスガ、將來ノ機會ニ於テ其ノ歲入補填ノ方法ヲ講ズルト云フコトモ亦必ズシモ不可能デナイ、大體左様ニ考ヘテ居ル次第アリマス
○子爵八條隆正君　主計局長カラ段々御説明ヲ承リマシタガ、極メテ抽象的デ實ハ私共ハドウ云フコトニナルノカ、諒解シ兼ヌル、是ハ昨日新聞デ見マシタコトデ、新聞ニハ斯ウ云フヤウナ風ニ散見スルガト云フコトデ大藏大臣ニ伺ツタノデスガ、自然増牧ト云フモノハ一ツノ見方ダ、斯ウ云フコトガ新聞ニ出テ居ツタ、併シナガラ自然增收ト云フモノヲ今日ニ於テ見ルト云フコトハ是ハ出來得マイ、歲入ノ見積ヲ立テラレタ時ニハ十五年度ニ於テハ斯クノ歳入ガアリモルト云フコトヲ、各種ノ條件ニ基イテ最モ

適當ナル見積リガ立テラレタモノト私ハ考ヘル、自然增收ト云フモノハ過去ノ例ニ依レバ相當アルト云フコトデアリマスガ、是ハ偶然生ズルモノデアッテ、今日ニ於テ自然增收ガアルト云フコトヲ期待シ得ルモノデハナイ、自然增收ガアルト云フコトガ確實ニ期待シ得ルナラバ、歳入ノ見積ガ過少デアツト云フコトニナルダラウト思ヒマス、歳入ノ見積ガ最モ適當ナル判断ノ下ニ出来居ツタモノデアルトスルナラバ、自然增收ハナイ筈ノモノデアル、ソレハ偶然ノ結果經濟上ノ如何ニ依シテ偶、生ズルコトガアル、偶然ノコトデ、場合ニ依シテハ自然增收ノミナラズ、反對ニ歳入ノ不足ヲ生ズルト云フコトモ考ヘラレル、偶然ハ偶然デアリマスカラ、ドチラノ結果ヲ來スカ知レナイ、殊ニ財界ノ經濟界ノ事情モ一面ニ於テハ相當行詰シテ居ルト云フ風ノ見方モアルノデアリマス、果シテ多大ノ自然增收ト云フモノハナイハ是ハ分ラナイ、要スルニ政府ノ出サレタ所ノ豫算ノ歳入ノ見積ガ最モ適當ニ出來テ居ツタモノナラバ、自然增收ト云フヤウ譯デアリマスカラ、之ヲ當テニスルト云フコトハ出來ナイ筈ノモノダト思ヒマス、ソレカラ無論大臣ハ自然增收ト云フヤウナコトヲ見テ居ルト云フコトハ自分ハ言ッタコトハナイト仰シヤッタガ、是ハ御尤モノコトダラウト思ヒマス、大臣トシテハ當然ノ御答辯デアラウト思ヒマス、ソレハ大臣云フコトモ一ツノ御考ノ中ニアッタヤウニ思モノヲ出シタノデアッテ、要求シタモノデア

ト云フモノデアレバ、事實サウ節約、或ハ繰延ガ出來ナイ筈ノモノデアルト思ヒマス、無論衆議院ニ於キマシテモ貴族院ニ於キシテモ、豫算討議等ニ於テ出來ルダケ節約ヲシテ貰ヒタイト云フコトハ申シテ居リマスケレドモ、併シ是ハ希望ニアッテ、政府トシテハ緊急差措キ難キモノヲ歳出トシテ認メタモノデアル、査定シタモノデアル、斯ウ云フコトデアレバ、政府トシテハ左様ナ緊縮繰延ノ餘地ハ左程ナイ筈ノモノデアル、斯ウ云フコトデナケレバナラヌ、若シモソレガアルトスレバ、時局便乗ガ其ノ間ニアッタモノデアルト云フコトヲ裏書キスルモノデアル、然ラバ歳出ニ於テ繰延、或ハ節約ト云フコトノ餘地ハサウアルベキ筈ノモノデヤナイト斯ウ思フノガ當然ノ道行キデアラウト思フノデス、唯此處ニ幾ラカ考へ得ラレルコトハ、實行豫算ヲ編成スルト云フコトガ、是モ時々言ハレルコトデアリマスガ、豫算不成立ノ場合ニ於テ實行豫算ヲ作ラレル、是ハ當然デアリマスガ、政府ガ所信ヲ持テ提出サレタ豫算ヲ、議會通過後ニ、又實行豫算ヲ以テソレヲ縮少スルト云フコトハ、是亦政府トシテ一體方針ガ決マラナイ譯デアル、唯現内閣ハ、議會中ニ於テ更迭シタモノデアリマスカラ、前内閣ノ作タ豫算ヲ踏襲セラレタ、短時日ノ間ニ於テ、現内閣ハ一應ノ検討ヲ遂ゲテ、急イデ之ヲ、議會ニ提訴ヲ加ヘラレテカラ、又或ハ若干ノ節約、繰延等ノ餘地ガアツテ實行豫算ヲ編成スルト云フコトモ出來ルカモ知レヌ、是モ事務當局トシテハ、豫算ノ審査ニ當シテ、各省ト折衝シテ、十分節約、緊急差措キ難キモノト認

メテ査定セラレタモノデアリマスカラシテ、事務當局トシテハ、大イニ現内閣ノ實行豫算編成ト云フコトニ付テハ疑義ガアルベキ筈ノモノダト私ハ考ヘル、サウ云フ風ニ考ヘテ來ルト節約、繰延ト云フモノハ左程期待シ得ベカラザル筈ノモノデアルト思フ、又議會トシテモ、兩院トモ鬼ニ角此ノ歲出ハ必ト云フヤウナコトデアレバ、議會ノ豫期シテ居ツタ仕事ガ出來ナイ譯ニナッテ來ルノデアリマスカラシテ、本來言ヘバ、寧ロ斯ウ云フ整理等ニ於テ節約ヲ必要トスル場合デナケレバ、サウ徒ラニ政府ガ勝手ニ議會デ協贊ヲ與ヘタ豫算ヲ、後ニ至ッテ實行豫算、或ハ實行豫算ヲ編成セズニ、仕事ヲシナイデ置クト云フコトニ付テハ、是ハ寧ロ或ハ場合ニ依ツテハ、議會ハ之ヲ咎メムケレバナラスト云フ立場ニモアル、豫算ハ鬼ニ角必要ナリトシテ協贊シタモノデアル、是等ヲ考ヘテ見ルト、豫算實行上ニ於テ無暗ニ政府ガ手心ニ依ツテ之ヲ節約、繰延ラスル、減縮ヲスルト云フコトモ、是ハ餘り感心シタ話デヤナイ譯ニ結局ナッテ來ルト思フノデアリマス、サウシテ見ルト云フト、大藏大臣ノ言ハレタ節約、繰延ニ依ツテ之ヲ六千何百萬圓ヲ生ミ出スト云フコトハ、是ハ必ずシモ首肯シ難キ議論ニナシテ來ル、サウシテ見ルト、大藏大臣ノ御話モアリマシタガ、或ハ又今主計局長モチヨット匂ヒヲ嗅イダヤウニ思フノデアリマスガ、次ノ議會ニ於テ、次期ノ議會ニ於テ追加豫算トシテ出ス、斯ウ云フ御話デアリマスガ、是ハ既ニモウ豫算算定デヤナイデス、豫算ヲ實行シテ金ガ足

○政府委員(谷口恒一)

少シクレトスウ云フ
後ニ至ツテ要求スル、
行スルノニ是ダケ金
ルグラウト思ツテ行ツ
ノクナッテ電報爲替デ
デアツテ、已ムヲ得ズ
至ツテ要求スル、是ハ
ウ云フコトデアルト、
跡リ、餘リヂヤナイ、良
思フ、議會トシテモ、
テモ明カニ歳出ガ六
ア居ルト云フモノヲ、
メテ、是デ宜シカラ
又無責任ナ話ダト思
ハ豫算トシテハ、歳
法ヲ今日ニ於テ取ツ
ヤナイカト思フ、如
右) 八條子爵ノ豫算
共事務ノ立場カラ全
ス、歳入ニ於テモ見
モノハ全部見積ラナ
アリマス、勿論事務
今日モ見込ミ得ベキ
置ヲ持ツタノデアリマ
マシテモ冗費ガアル
リマス、其ノ點ニ付
ケ努力ヲ致シマシテ、
來ルヤウニ十分ニ努
ノ豫算トシテハソレ
仰セノ通りニサウ云
レバ、茲ニ歳入ノ缺
スウ云フ修正ガ行ハ

レマスレバ、サウ云フ缺陷が生ズルト云フコトハ全ク仰セノ通リデアリマス、サウシテ先キ行キノ見込ニ付キマシテハ、實行豫算ト云フヤウナ話モ一部議會ニ於テアルノデアリマスガ、政府ト致シマシテサウ云フ者ガナイト云フコトハ、諸種ノ機會ニ、サウ云フ考ハナイト云フコトヲ明カニ申シテ居ルノデアリマシテ、サウ云フ立場ハ我々全ク事務的立場ト一致シテ居ルノデアリマスガ、サウ云フ立場ニ立チマスレバ、缺陷ガアルコトハ明カデアルノデアリマス、私モ先程抽象的ニクダヽト長ク申上ゲタヤウデアリマスガ、之ヲ極ク簡單率直ニ申シマスレバ、歲入缺陷ノアルト云フコトハ、是ハ事實デアリマス、併シ次期ノ議會ニ於テ此ノ缺陷ヲ填メルト云フコトデ事務的ニ支障ヲ感ジナイ、次期ノ議會ニ於テ此ノ缺陷ヲ填メルト云フ御言葉ニ付キマシテハ、尙ソレ又一種ノ豫算デアルカドナクシテ、後デソレノ整理ヲスルヤウナモノデアルト云フ仰セデアリマスルガ、ソレガ豫算デアルカナイト云フ御言葉ニ付キマシテハ、尙ソレ又一種ノ豫算デアルカド思フノデアリマスガ、ソレハ大體仰セノ通りニ當初ニ於テ十五年度豫算トシテ、當初ニ於テ缺陷ガアツタノヲ填メテ置カナイ、推移ヲ見タ後デ途中デハアリマスガ、終末デハナイ、年度ノ途中デハアリマスガ、相當経過シタ後ニ於テ或處置ヲ執ルト云フコトノ違ヒハアルト、私共サウ考ヘルノデアリマス、事務的ニ考ヘマシテ、後ノヤウナ方法ヲ執リマシテモ必ずシモ支障ヲ生ズルコトハナイト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリ

八條子爵ノ御問答ニ付キマシテ一黠伺ヒタ
イト思ヒマス、誠ニ八條子爵ノ憂慮セラレ
ル處、茲ニ議員トシテ豫算ヲ審議シ、茲ニ
稅法ヲ審議スルト云フ立場カラ見マシテ、
唯一片ノ法理論ヲ離レテ、誠ニ御尤モナ御
意見ト思フノデアリマス、前例ニ付キマシテ
ハ僅カニ二萬カ三萬ノ喰達ヒ、是ハ前年度ノ
剩餘モアルカラ宣シトイ思ヒマスケレドモ、
數千萬圓ノ缺陷ヲ生ジテ、是ハ唯歲入豫算
ヲ作レバ歲入缺陷ハドウカナルト云フコト
デ審議スルト云フコトハ、議員ノ職責カラ
言ヒマシテ甚ダ其ノ責ヲ盡サヌト云フ御意
見ハ誠ニ御尤モニ思フノデアリマス、ソコ
デ今政府ニ御注文ト申スカ、御注意ガアリ
マシタノデ、其ノ御注意誠ニ適當ト思フノ
デアリマシテ、多少私モ其ノ問題ニ付キマ
シテ研究致シマシタ上ニ、是ハ政府當局ニ
個人ヲ以テ話シテモ宜シイノデアリマスケ
レドモ、先輩諸君モ大勢居ラレルノデアリ
マシテ、オ互考究スベキモノト思ヒマスノ
デ、政府ニ質問ヲ致ス形ニ於テ多少意見ガ
混リマスガ、御許シヲ願ヒタイト思ヒマ
ス、昨日大藏大臣ノ御説明ニモアリマシ
タガ、此ノ五十八億カラノ歲出豫算ノ中ニ
多少ノ歳出不用ガ出來ルダラウト云フコト
デゴザイマシタガ、成ル程昭和十四年ノ實
績ヲ見マシテモ、政府ノ他ノ機會ニ於テ
屢々説明セラル、コトヲ綜合致シマスト、數
千萬圓ノ歳出不用ガ出テ居ルト想像シナケ
レバナラヌ理由ガ幾多アリマスカラ、今日
此ノ昭和十五年度ガ經過致シマシテ、來年
ノ議會ニナタ頃ニハ、矢張リ數千萬圓ノ歲
出不用ガ出ル、斯ウ想像スルノモ想像シ得
ナイコトデハナイト思ヒマス、五十數億ノ
中一割トシテモ五億、一分トシテモ五千萬

圓、六千五百萬圓ハ一分二三厘デアリマスカラ、或ハ出ルカモ知レマセヌ、併シナガラ今日豫算トシテ之ヲ審査スルニ當リマシテハ、今八條子爵モ言ハレマシタ通リニ、十分節約ヲシテ出來ルダケノ所要額ヲ計上シテ居ルト言ヒナガラ、實績ニ上ラヌ今日ニ於テ之ヲ數千萬圓出ルグラウト云フヤウナ議論ヲスルコトハ、是ハ誠ニ當ラヌト思フノデス、成ル程歩合ハ一分ニナルカモ知レマセヌガ、金額ノ絕對數ハ數千萬圓、假リニ歩合ガ一割ニナリマシテモ、二三萬圓ノコトナラ又格別ズケレドモ、歩合ハ僅カ一分ズケレドモ、絕對數ハ數千萬圓、是ハ值打ニ於テ非常ナ差ガアル、然ラバソレハ不用額ハ出ナイト云フコトヲ前提ト致シマスルナラバ、只今八條子爵モ此ノ點ヲ論難サレマシタガ、他ノ財源補填、蓋シ赤字公債ヲ將來ニ於テ又支出スト云フコトデアラウト思ヒマスガ、是ハ成ル程今卑近ナ例ヲ挙ゲラレマシタガ、旅行先カラ電報爲替ヲ打ツヤウナモノデ、是亦法理ノ、細々シイ形式的ノ法理論、會計法論、憲法論ハ姑ク措キマシテ、決シテ豫算審議、茲ニ稅法審議カラ言ツテ穩當ナ方法トハ思ハレマセヌ、ソコデ斯ウ云ブコトハ政府トシテ御考ニナラヌノデアリマスカ、コガ質問ニナルノデアリマスガ、他ノ機會ニ於テ政府當局カラ屢々御説明ニナッテ居思ハレル節ガアル、或ハ之ヲ他ノ機會ニ於ル所ニ依リマスト、昭和十四年度、即チ本年度、昭和十四年度ニ於テ歳出不用ヲ生ズル額ハ少クトモ一億數千萬圓デハナイカトテ説明セラレタノモ屢々アツタト思ヒマスケレドモ、今一々記憶シテ居リマセヌガ、速記中止ノ場合ニ觸レルナラバ後テ委員長ニ

於テ御整理ヲ願ヒマスガ、本年度ノ赤字公債ノ發行ノ中、數億ト云フモノハ發行セズシテ濟ムデアラウト思フト云フ政府ノ御説明ガアツタ場合ニ、本年度ニ於テ自然增收ガ一億何千萬圓位……是ハ餘り重要ナ問題ニアリマセヌカラ數字ハ忘レマシタガ、其ノ外歳出不用ニナルモノガ一億何千萬圓位アラウト思フ、斯ウ云フ御説明ガアツタヤウニ記憶シマス、併シ其ノ當時ノ政府ノ御説明デハ、併シナガラ、此ノ中一應不用ト見込ンデ居ル所ノモノハ、昭和十四年度、既ニ協賛ヲ經タル、若シクハ經ムトシツ、アル所ノ昭和十四年度、本年度、當該年度ノ歲出豫算ノ財源ニ充テルコトニナツテ居ル……チヨックト横道ニ入りマスケレドモ、當該年度ノ追加豫算ニ最近出マシタ例ハ、大抵歲入不足ハ當該年度ノ歲出節約ヲ以テニ充テルトナツテ居ルノデアリマス、是ハ私ハ好イ例トハ思ヒマセヌ、實ヲ申シマスト面白カラザル例ト思ヒマスケレドモ、是ハ例ガ出テ居ル、何時デシタカ忘レマシタガ、昭和十一年度ノ春デシタカ、新例デアッタカト思ヒマスガ、初メハ割合ニ金額ハ少カツタノデアリマズガ、本年度ニ至ツテハ千九十万圓、一千何百萬圓ト云フノガ出テ居ルノデアリマス、是ハ單純ニソレノミヲ以テ議論スレバ、議論ノ餘地ガ私ニモアリマスケレドモ、ソレハ姑ク措キマシテ、本年度ノ十四年度ノ今政府ガ十四年度、即チ本年度ノ歲出不用額ヲ以テ、之ガ自然ト歲入超過ニナル部分ヲ以テ、他ノ追加豫算ノ財源ニ充テル、説明セラレタ所ヲザット通計シテ見マスルト、マダソレガ五千萬圓ニハ足ラヌデハナイカ、四千六七百萬圓ヂヤナイカ、計算シナイカラ分リマセヌガ、サウ致シマスト、今日モ

モウ三月中旬ヲ過ギテ居リマス、正確ナコトハ無理デゴザイマセウケレドモ、政府ニ於テハ既ニ昭和十四年度ノ現計ノ凡ソ見达ハ付イテ居ルト思フ、サウスレバ昭和十四年度ニ生ズベキ所ノ歳入ノ超過額竝ニ歳出不用額ニ依リマシテ、昭和十四年度ニ生ズベキ所ノ剩餘金ト云フモノガ凡ソ見込ガ付イテ居ルノデハナイカ、而モ其ノ見込タルヤ、僅カニ一千萬圓、二千萬圓ノモノニアラズシテ、數千萬圓ニ上ル見込ガ付イテ居ルノデハナイカ、果シテ然ラバ、昭和十四年度ニ生ズベキ所ノ前年度剩餘、即チ十五年度ノ會計法上當然歲入トナルベキ所ノ財源ノ見込ガ立ツテ居ル、之ヲ以テ補填スルト云フコトニセラレタラ如何デアリマスカ、是ハ必ズ十五年度ノ追加豫算、今年ノ今年度ノ會計法上當年歲入トナルベキ所ノ財議會デハアリマセヌガ、次ノ議會ニ出ル所ノ十五年度ノ追加豫算ノ財源竝ニ十六年度以降ノ豫算ノ財源ニ喰込ムコトデアリマシテ、ソレダケ不自由ニナルコトハ已ムヲ得マセヌ、又卑近ナ例ヲ申上ゲレバサウナルコトニシテモ、旅立ツ時ニハ懷中ニ金ヲ持ツテ出ル、卑近ナ例ヲ申上ゲレバサウナルト思ヒマスガ、サウ云フ方法ハ立チマスマリカ、只今八條子爵ガ言ハレタ通り、御答ガ出来レバ結構デアリマスガ、出来マセヌケレバ御者究セラレタラ如何デセウ、政府サンノ只今ノ仰セデアリマスガ、十四年度問シタ次第デアリマス

ノ歳出歳入ノ状況ハマダ確タル見込ヲ立てル時迄達シテ居リマセヌノデアリマスガ、仰セノ通りニ歳出ニ於キマシテモ相當ノ不^レ用額ヲ生ズルコトニ相成ルダラウト云フ見込ハ立ツノデアリマスルガ、只今御示ニナリマシタヤウナ考へ方ニ付キマシテハ、只今直チニ此ノ席デ御答モ致シ兼ネマスノデアリマスルカラ、ヨク研究致スコトニ致シタイト思フノデアリマスルガ、大體ニ於キマシテ此ノ剩餘金、年度ノ末ニ於キマシテ大體歳入歳出ノ状況ヲ見透シマシテ、其ノ締メ括リヲ致シマスコトニ付キマシテハ、是ハ河田サンニハ申上ゲル迄モナイノデアリマスガ、出來ルダケ的確ナ見込ヲ立てルコトニ努力ヲ致スノデアリマスガ、當今歳入補填公債ヲ發行致シテ、歳入歳出ノ此ノ辻棲ヲ附ケテ居リマスル只今ノ状況ト致シマシテハ、成ルベク歳入補填公債ノ發行額ヲ少クスル、此ノ見積方ニモナカヽ十分ノ手段ヲ盡シマシテ、而モ見積ノ附キ兼ネルコトモアルノデアリマスルガ、見積ノ附キ得ルダケハ正確ニ正確ヲ期シテ、赤字公債ノ發行額ヲ少クシヨウト云フ努力ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、無闇ニ歳入補填公債ヲ出シ過ギマシテ、サウシテ剩餘金ノ出ルト云フヤウナ状態モ好マシカラザルモノト心得テ居ルヤウナ次第デアルノデアリマスガ、只今御示ノヤウナ方向ニ於キマシテ、先程カラノ八條子爵カラノ御提議ニナリマト研究致シマシタ上ニ御答ヘ申上ゲタイト思ヒマス

ガ先刻歳出不用額、竝ニ歳入超過額ヲ申上
ゲマシタモノデスカラ、今ノ政府委員ノ頭ニ
ビント響イタヤウニ、今年度ノ赤字公債ヲ、
他ノ收入超過額ヲ以テ之ヲ發行額ヲ減ラサ
ト、サウ云フ意味デアリマセヌ、其處ヲ改
メマシテ、術語的ニ歳出不用額、歳入超過
額ト癖ニナッテ居ルモノデスカラ申シマシ
タガ、私ノ趣旨ハ、此ノ政府ガ毎々説明セ
ラレマシタ所ノ歳出不用額ソレ自身ニ於テ
モ數千萬圓ノ茲ニ剩餘金ガ生ズル計算ニナ
ルンデヤナイカト思フノデアリマス、現計
ハ存ジマセヌカラ分リマセヌケレドモ、ソ
レガ出來ナケレバモウ私ノ申上げタコトハ
實行難ニ陷リマス、ソレガ出來ルナラバ是
亦一方法カト思ツタ次第デアリマス、決シテ
赤字公債ヲ出來ルダケ發行シテ置ケト、無
論サウ云フ意味デナイト云フコトヲ一言附
ケ加ヘテ置キマス

レバナラヌト云フコトニハ結果ハナラヌ
ダラウト思ヒマス、豫算トシテノ辻棊ヲ
合セルト云フ意味カラサウ云ウ方法ヲ執ツ
テ置カレルト云フコトガ適當ナ處置デハナ
イカ、斯ウ云フ風ニ考ヘルノデアリマス、
左様ナ方法ヲ執ラレタ處デ必ずソレダケノ
公債ヲ増發セムケレバナラヌト云フ結果ニ
ハナラヌト云フコトヲ考ヘルノデアリマス
○子爵大河内輝耕君 私モ關聯シテ伺ツテ
置キマス、歳出不用額ト云フノハ一體十一
年、十二年、十三年度ハドノ位ニナッテ居
リマスカ、ソレカラ十四年度ハドノ位ニナ
ル御見込デスカ

○政府委員(谷口恒二君) 只今八條子爵ノ
重ネテノ御發言ニ依リマシテ、仰セノ御越
旨ガ更ニ深ク拜承申上ガルコトガ出來タノ
デアリマシテ、一層ヨク其ノ御趣旨ニ依リ
マシテ研究申上ゲタイト思フノデアリマス、
ソレカラ大河内子爵ノ御話デアリマス十二
年度以前ノ數字ハヨット不調法デ只今此
處ニ持ツテ居ラナイノデアリマスガ、十三年
度ノ狀況ト致シマシテハ、不用額ハ二億四
千二百萬圓ニ達シテ居リマス
○子爵大河内輝耕君 私ハ其ノ御研究ニナ
ル材料トシテ一つ申上ゲテ置キマス、速記
ヲ止メテ戴キマセウカ

○委員長(伯爵林博太郎君) 速記ヲ止メテ
〔速記中止〕
○委員長(伯爵林博太郎君) 速記ヲ始メマス
○子爵大河内輝耕君 サウ云フ風ニ政府ニ
シッカリ受合ツテ戴キマス、議員ノ方ノ考ハ
ドウカト云フコトニナルト、紀男爵カラ
ハ、此ノ豫算ノ執行ニ於テ大イニ節約シロ
ト云フコトヲ云ハレ、前田子爵モ亦物價騰
貴等ヲ非常ニ憂ラレテ、此ノ點ヲ警告サレ
タ、ソレデアノ豫算ヲ我々ガ審議シタノ
ハ、アノ豫算ヲ満足ナモノト思ツテ審議シ
タモノデモ何デモナイ、今日ノ節約ヲ要スル
ヤウナコトヲ政府が世間ニ言ツテ居ル頭力
ラ云ヘバ、ア、云フ豫算ハ組メタモノデナ
イ、アレハマア自分勝手ナ豫算ト云フモノ
デ、サウシテ國民ニ向ツテ節約々々ト言ツテ
居シテ、自分ノ方ハ勝手ナコトヲスルト言ツ
タ豫算、併シ之ヲ政府ニ直シテ出セバ宜イ
ジャナイカト言ツテモソレハ無理ナコトデ、
此ノ間出タ許リノコトデ、ソレヲスッカリ直
シテ掛ルト云フコトハ出來ナイ、議員ト雖
モソレヲ此ノ短時日ノ間にサ精細ナコトヲ
言ツテ、スッカリ直シテ行ケト言タ所デ、ソ
レモ無理ナ話、寧ロは政變モアッタコトデ
アリマスシ、又豫算編成當時ノ事情ト今日
ノ事情トハ非常ニ異ツテ居リマス、其ノ當時
ハ是ダケノコトガ必要デアッタヤリタイト
言ツテモ、今日ノ財政上、經濟上、又政治上
ノ狀態カラ云ヘバ必ズシモ來年ハヤラナク
テモ宜シイト云フ事情ガ發生シテ居ル、サ
ウ云フ各種ノ實情カラ見テ、政府トシテ、
アレデ十分執行ガ出來ルト云フコトヲ確言
デ、何モ無用ナ費用ヲ議會ハ協賛シタ所ハ
ダケ節約シテ戴キタイ、何故ト言ヒマス
言ヒマセヌケレドモ、政府トシテハ出來ル
ノデ、豫算ト云フモノハ腰ダメデヤシテ居
ルモノデナイ、デアリマスカラ相當ナ不用
額ガ實行上出来ヤウト云フコトハ初メカ
ラ分ツテ居ル、サウ云フコトカラ云ツテ政府ト
シテ豫算ヲ執行スルニ於テ、殊ニ斯ウ云フ

タ、ソレデアノ豫算ヲ我々ガ審議シタノ
ハ、アノ豫算ヲ満足ナモノト思ツテ審議シ
タモノデモ何デモナイ、今日ノ節約ヲ要スル
タモノデモ何デモナイ、今日ノ節約ヲ要スル
ヤウナコトヲ政府が世間ニ言ツテ居ル頭力
ラ云ヘバ、ア、云フ豫算ハ組メタモノデナ
イ、アレハマア自分勝手ナ豫算ト云フモノ
デ、サウシテ國民ニ向ツテ節約々々ト言ツテ
居シテ、自分ノ方ハ勝手ナコトヲスルト言ツ
タ豫算、併シ之ヲ政府ニ直シテ出セバ宜イ
ジャナイカト言ツテモソレハ無理ナコトデ、
此ノ間出タ許リノコトデ、ソレヲスッカリ直
シテ掛ルト云フコトハ出來ナイ、議員ト雖
モソレヲ此ノ短時日ノ間にサ精細ナコトヲ
言ツテ、スッカリ直シテ行ケト言タ所デ、ソ
レモ無理ナ話、寧ロは政變モアッタコトデ
アリマスシ、又豫算編成當時ノ事情ト今日
ノ事情トハ非常ニ異ツテ居リマス、其ノ當時
ハ是ダケノコトガ必要デアッタヤリタイト
言ツテモ、今日ノ財政上、經濟上、又政治上
ノ狀態カラ云ヘバ必ズシモ來年ハヤラナク
テモ宜シイト云フ事情ガ發生シテ居ル、サ
ウ云フ各種ノ實情カラ見テ、政府トシテ、
アレデ十分執行ガ出來ルト云フコトヲ確言
デ、何モ無用ナ費用ヲ議會ハ協賛シタ所ハ
ダケ節約シテ戴キタイ、何故ト言ヒマス
言ヒマセヌケレドモ、政府トシテハ出來ル
ノデ、豫算ト云フモノハ腰ダメデヤシテ居
ルモノデナイ、デアリマスカラ相當ナ不用
額ガ實行上出来ヤウト云フコトハ初メカ
ラ分ツテ居ル、サウ云フコトカラ云ツテ政府ト
シテ豫算ヲ執行スルニ於テ、殊ニ斯ウ云フ

シナガラ之ガ爲ニ法人ノ蒙リマスル苦痛擴害ト云フモノハ夥シキ高ニ上ルノデアリマス、私ハ幾多ノ例ヲ調べタモノガアリマスルガ、先づ先程例ニ引キマシタ一千萬圓ノ資本金デ五割ヅ、ノ利益ヲ毎年繼續シテ舉ゲテ居ツタ會社ニ例ヲ取ッテ申上ゲタイト思ヒマス、此ノ會社ハ稅ヲ差引キマシテ、純粹ノ利益ヲ毎年五百萬圓ヅ、譽ゲテ居リマス、處ガ是迄デアレバ此ノ五百萬圓ニ對シヒマス、此ノ課稅ヲ受ケタノデアリマスガ、今回テノミ課稅ヲ受ケタノデアリマスガ、今回前年ノ分ニ對スル所ノ租稅ヲ損金トシテ控除スルコトガ出來ナクナッタ結果ト致シマシテ、前年度ノ租稅ニ振當タル所ノ金額ハ是利益トシテ計上シナケレバナラヌコトニナルノデアリマス、ソコデ此ノ五百萬圓ノ利益ニ對シマシテ現行法ニ依ル所ノ負擔ガドレダジニ致シマシテモ七一・一ト云フコトニナリマス、處ガ三百六十一萬圓ト云フモノヲ之ヲ控除スルコトガ出來ナイトスレバ、是ハ利益トシテ計算ヲシナケレバナリマセヌ、茲ニ於キマシテ其ノ從來稅引ノ殘リトシテ餘リマシタル純益ノ五百萬圓ニ三百六十一萬圓ヲ加ヘマスルト八百六十一萬圓ト云フコトニナリマス、之ニ改正法ニ依リマスル稅ヲ掛ケテ見マスルト五百二十五萬圓ト云フコトニナリマス、五百萬圓儲ケマシタ會社ガ即チ此ノ改正法ニ依リマシテ二十五萬ル問答ガ新聞ニ現レタノヲ見マスルト、大藏大臣ハ之ヲ改メルニ於テハ收入ハ二億圓ノ缺陷ガ生ズルト云フコトヲ答ヘラレタヤ

ウニ掲載シテ居リマスガ、果シテサウデアリマス、從來ノ例ノ如ク税金ヲ缺損ト看做スト云フコトニナレバ二億圓ノ茲ニ差ガ生ズル、此ノ二億圓ノ差ヲ引クト云フコトハ是迄ノ通りデアレバ、是ハ當然デアリマス、處方今回ハ之ヲ止シテ是非共二億圓ノ増收ヲ圖ラウト云フコトハ如何ニ其ノ事ガ無理デアルカト云フコトガ窺ハレルノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ課税ヲ受ケル所ノ會社ニ取リマシテハ如何ニ苦痛デアルカト云フコトハ申ス迄モナイコトト思ヒマスガ、私ハ今回ノ改正法ハ次ノ年ヨリハ是ハ差支ナイト思ヒマス、又先程申シマシタ通リニ、此ノ建テ方ハ理論上正シイト思ヒマスガ、詰リ過渡期ニ於ケル所ノ當年ノ負擔ト云フコトハ非常ナル過重ナモノデアリマシテ、寧ロ是ハ亂暴ト云フベキモノデハナカラウカト私ハ考ヘルノデアリマス、デ少クトモ大蔵省ト致シマシテハ、斯ウ云フ過渡期ニ於キマシテ法律ヲ改正シタコトヨリ生ズル所ノ大キナ負擔ニ對シマシテハ、適當ナル臨時ノ措置、方法ヲ執ラレルノガ、當然ト思ハレマスルガ、其ノ措置法ニ付キマシテ私ハマダ何ニモ伺シタコトハアリマセヌガ、何カナルト云フコトガアリマセウカ、其ノ點ヲ伺シテ見タイト思ヒマス

○橋本辰二郎君 稅金ヲ無論除イタモノデ
ゴザイマス、損……
○政府委員(大矢半次郎君) 左様致シマス
ルト、此ノ利益ノ二百五十萬圓ニ對シマシ
テハ、更ニ稅ヲ負擔スルト云フコトナナイ
モデアリマス、若シモ此ノ二百五十萬圓ニ
稅ヲ負擔セシメルト云フコトニナルト、一
期ニ稅ガ損金ニ一遍出シテ、ソレカラ更ニ
出ス、斯ウ云フヤウナ計算ニナルノデアリ
マスカラシテ、從ヒマンシテ若シモ稅金ヲ損ニ計
算シテ、其ノ殘リガ二百五十萬圓ト致シマス
レバ、法定積立金ヲ除イタ後ハ全部配當ニ
充テ得ルト云フコトニナルノデ、先程御話
ノアタタ一割程度ノ配當シカ出來ナイト云
フコトハ、ドウモ計算上出テ來ナイト、斯
ウ云フ風ニ考ヘマスガ、如何デゴザイマセ
ウカ
○橋本辰二郎君 イヤ私ハ是ハ改正法ト舊
法トヲ取違ヘテ今咄嗟ニ申上げタノデス
ガ、所謂前ニ私ガ申シマシタ例ハ、稅金モ
利益ト見テ居リマス
○政府委員(大矢半次郎君) 最初御舉ゲニ
ナツタノハ現行法ノ下ニ於テスラモ此ノヤ
ガ、所謂前ニ私ガ申シマシタ例ハ、稅金モ
利益ト見テ居リマス
○橋本辰二郎君 私ノ計算ニ依リマスレバ、
先程申上げタノガ現行法ニ依ッテモ此ノ通
リナ何ガ出ル、尤モ稅金モは利益ノ中ニ
含メテ居ルモノデアリマス、貴方ノ方ノ計
算ガ若シ是ガ私ノ方ト違フト云フコトデア
レバ、ソレヲ御示ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(大矢半次郎君) 若シモ税金ヲ
利益ニ見テ現行法デ計算致シマスルト、ソ
レハ現行法ノ解釋上サウ云フ計算ハ出テ來
ナ、現行法ノ下ニ於キマシテハ、所得稅
臨時利得稅ハ經費ニ見テアル、サウシテ課
稅所得ヲ計算致シテ居ル、然ルニゾレヲ益
金ニ見テ現行法ノ負擔ヲ算出スルト云フノ
ハ如何デゴザイマセウ

○橋本辰二郎君 私ノ言フノハ、五百萬圓
ナルモノハ、稅ヲ引イタ殘リノ純益、之ニ
稅ヲ加ヘマスト、是ハ七百萬圓ナリ、又ハ
八百萬圓ナリニナル、斯ウ云フコトニ依ッテ
計算ヲシテ居ル

○政府委員(大矢半次郎君) 左様致シマス
ト稅ヲ引イタ殘リノ二百五十萬圓ト五百萬
圓トハ全額、是ハ自由ニ配當出來ル譯デ、
ソニ對シテハ更ニ稅ト云フモノハ掛カルシ
譯ガナイノデゴザイマス、法定積立金ヲ除
イタ後ハ全部配當 重役賞與ニ充テ得ル、
斯ウ云フコトデゴザイマスカラシテ、一千
萬圓ノ資本金ノ會社デ、若シモ五百萬圓ノ
利潤ヲ舉ゲタストレバ四割モ、五割モ配當
シ得ル、斯ウ云フコトニナルノデアリマス
シ得ル、斯ウ云フコトニナル、其ノ
五百萬圓殘ル、斯ウ云フコトニナル、其ノ
年ノ利益ニ付テノミ考へマシタノデハナイ
ノデアリマス、ズット數年間純益ヲ五百萬圓
是迄稅ハ經費トシテ控除スルト云フコトガ
許サレテ居タガ爲ニ、結局七百五十萬圓
益ガアレバ、其ノ内二百五十萬圓稅ニ出シ
マシテ、其ノ殘り五百萬圓ヲ純益ト見ル、

斯ウ云フ計算デ此ノ五百萬圓ノ純益ニドレ
ダケノ稅ガ掛ルカト云フコトヲ計算ヲ致シ
マシテ、先程私ノ申シタヤウニナルヤウニ
考ヘラレマス

○政府委員(大矢半次郎君) ドウモ御話ノ
御趣旨が能ク分リ兼ネマスガ、若シモ毎期
相當利益ヲ舉ゲルガ、其ノ利益ニ對スル稅
ヲ其ノ期ノ利益カラ、或ハ稅ノ引當金トカ、
後期繰越金トカニ致シマシテ後ニ殘シて置
イテ、サウシテソレカラ事實上稅ヲ拂ッテ居
タト致シマスレバ、ソレハ丁度今回ノ改正
案ト同ジヤウナ處理ヲ會社ニ於テ致シテ居
ル、稅金ヲ利益ノ中カラ出シテ居タト、斯
ウ云フコトニナリマス、若シモサウデナク
稅金ハ其ノ期ノ利益カラ拂ハズニ、翌期ノ
經費カラ拂ッテ居タト致シマスレバ、各事業
年慶ノ利益一百五十萬圓トカ、五百萬圓ト
云フヲハ、既ニ稅金ヲ納メタ後ノモノニア
リマスカラ、之ニ對シテ更ニ稅ガ掛ルト云
フコトハナイ、從ヒマシテ二百五十萬圓、
五百萬圓ト云フ各期ノ利益ハ其ノ儘法定積
立金ヲ除イタ後ハ、全部株主配當ニ當て得
ルト、斯ウ云フコトニナルト思フノデアリ
マス

○橋本辰二郎君 ドウモアナタノ言フコト
モ私甚ダ諒解ヲシ難イノデアリマスガ、純
益五百萬圓アル者ニ對シテ格別稅ハ掛ラズ
シテ、是ハ自由ニ處分ナシ得ルト云フヤウ
ナコトハ、ドウモ私甚ダ諒解シ難イノデア
リマス、當然稅ノ數字ノ問題ニ付キマシテ
ハ、アナタノ方デ一ツ千萬圓ノ資本金ノ會
社方五百萬圓ノ純益ヲ舉ゲタ場合ニ於テ、
幾何ノ稅ガ掛ルカト云フコトヲ御調ニナッ
テ、ソレヲ御示ヲ願ヒタイ、是ハ此ノ問題
ハ後ニ譲リマス、ソレカラ只今私ノ申上ゲ

マシタ今回ノ改正率ニ依ル所ノ非常ナル負
擔ノ重イト云フコトニ付キマシテノ御答辯
ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(大矢半次郎君) 私共ノ方デ一
ツ計算シタ例ガゴザイマスカラシテ、其ノ
コトヲ申上ゲテ御諒解ヲ得タイト存ジマス、
ソレハ資本金百萬圓ノ會社ガ年五割ノ利益
ヲ舉ゲタ場合、是ハ新設法人ト致シマシテ
事業年度一ヶ年ト致シマス、サウ致シマス
ルト云フト現行法ノ下ニ於テハ第一期ノ稅
ハ三十二萬九千八百八十圓ゴザイマス、
併シ是ハ第一期カラ支出致シマセヌデ、第
二期ノ經費トシテ支拂ハレルノデアリマス
ガ、第二期ニ同ジク事業カラ五十萬圓ノ利
益ヲ舉ゲマスルト云フト、第一期稅ニ相當
スル分ヲ經費ニ見テ居リマスルカラシテ、
其ノ結果稅ノ負擔ハ七萬九千四百四圓ニナ
リマス、第三期ニ於キマシテ同ジ事業カラ
六十萬圓ノ利益ヲ舉ゲタ致シマスト、第
二期ノ課稅所得ガ少ナク計算セラレマス結
果、其ノ稅ガ少ナクナル、從テ第三期ニ於
キマシテハ三割九分二厘、改正案ニ於キマ
シテハ五割五分五厘、斯ウ云フ風ニナッテ居
リマシテ、是ハ資本金ニ對シテ年五割以上
ノ利益ヲ舉ゲテ居ル法人、大分利益率ノ高
イ法人デアリマスガ、改正案ニ於キマシ
テ十期平均ニシマシテ先ヅ五五「ペーセ
ント」ノ稅負擔ガアルト云フ次第ゴザイ
マス

○橋本辰二郎君 アナタノ調ベタノト私ノ
建前ガ、詰リ稅ヲ籠メルカ除外スルカデ計
算ノ差ヲ來シタモノト思フノデアリマスガ、
此ノ改正案ニ依レバ、私ノ方ハドウシテモ
前年度ノ課稅ヲ利益ニ計算サレルト云フナ
ラバ、ドウシテモ先程私ノ申シタヤウニナ
ラザルヲ得ナイヤウニ思ヒマスガ、是ハ數
字ニ瓦ルコトデアリマシテ、非常ニ面倒デ
モノヲ受ケナケレバナラヌカラ、斯ウ云フ
コトニ付キマシテ、何トカ他ニ適當ナ措置法ヲ
考ルト云フコトガ最モ必要デアラウト思ヒ
マス、ソレカラ深切ナヤリ方デアラウト思
ヒマスガ、ソレニ付キマシテハ何ニモ御考
ハアリマセヌカ

○政府委員(大矢半次郎君) 從來稅金ヲ、
所得稅、臨時利得稅デアリマスカ、之ヲ經
費ニ入レテ居タノヲ、此ノ度經費ニ見ナイ
萬一千圓、改正案ニ於テハ二百七十七萬八
千圓、斯ウ云フ風ニナッテ、稅金負擔ハ相當
重クナッテ居リマスガ、是ハ利益率ガ高イ法
人デアリマスカラ、斯ウ云フ風ニ重クナッテ
居リマスガ、十期間平均致シマスルト、利
益ニ對スル負擔ノ割合ハ、現行法ノ下ニ於
キマシテハ三割九分二厘、改正案ニ於キマ
シテハ五割五分五厘、斯ウ云フ風ニナッテ居
リマシテ、是ハ資本金ニ對シテ年五割以上
ノ利益ヲ舉ゲテ居ル法人、大分利益率ノ高
イ法人デアリマスガ、改正案ニ於キマシ
テ十期平均ニシマシテ先ヅ五五「ペーセ
ント」ノ稅負擔ガアルト云フ次第ゴザイ
マス

○橋本辰二郎君 アナタノ調ベタノト私ノ
建前ガ、詰リ稅ヲ籠メルカ除外スルカデ計
算ノ差ヲ來シタモノト思フノデアリマスガ、
ニ於キマシテモ、過渡期ニ於ケル事業年度
ニ於キマシテ、二度分ノ稅ヲ支拂フト云フ
二期分ノ稅ヲ一時ニ取ルト云フ譯デハアリ
マセヌ、國庫ノ收入カラ見マシテモ過渡期
ニ於キマシテ、二度分ノ稅ガ餘分ニ入ッテ
來ルト云フ譯デモゴザイマセヌシ、各會社
ニ於キマシテモ、過渡期ニ於ケル事業年度
ニ於キマシテ、二度分ノ稅ヲ支拂フト云フ
譯デハアリマセヌ、一期ニ付テ一度ヅ、稅
ヲ納メルト云フコトニナリマス、唯從來其
ノ期ノ所得ニ對スル稅ハ、其ノ期ノ支出ニ
シナイデ、翌期ノ支出ニシテ居ル、然ルニ
シナリ、斯ウ云フ風ニナッテ居ル、斯ウ
云フコトニナルノデアリマスガ、改正案ニ
シク御示ヲ願フヤウニシタイモノト思ヒマ
ス、何レニシマシテモ私ハ此ノ改正ノ次々
テ致ス結果ト致シマシテ、一見如何ニモ過

渡期ニ於キマシテ、前期ノ事業年度ニ對ス
ル税ヲ損デ出ス同時ニ、當期ノ税ニ對ス
ル税モ亦出スカラシテ、其ノ期ニ「ダブル」ノ
デハナイカト云フ感ジヲ持ツノデアリマス
ルガ、是ハ當期ニ對スル税ハ當期ガ済ンダ
後ニ翌期ニ於テ二度分ノ負擔ヲスルト云フ
譯デハアリマセヌ、翌期ニ於テ當期ノ所得
ニ對スル税ヲ納メルノデアルガ、其ノ場合
ニ從來ハ翌期ノ損ニ見テ居ッタノヲ、是カラ
ハ損ニ見ナインダト云フダケノコトデゴザ
イマシテ、當期ニ於テ別ニ一事業年度ニ二
度分ノ税ヲ拂フト云フコトハナインデアリ
マシテ、現今ノ税ヲ見マシテモ、過渡期ニ
於テ決シテ二度分ノ税ヲ支拂フノデハナイ、
一度分ノ税シカ支拂ッテ居ナイン、課稅標準ノ
計算上從來ト異シタコトヲヤルニ遇ギナイ
ノデゴザイマス、ソレカラ税ヲ經費ニ見ル
ノヲ今度止メタガ、若シモ經費ニ見ルト云
フコトニスルト云フト、二億一千萬圓以上
ノ國庫減收ヲ來スト云フガ、是ハドウモ信
ジ難イ數字デアルト云フコトモ能ク申サル
ルノデアリマスケレドモ、是ハ昨日モ申上
ゲマシタ通り、法人ニ對スル負擔ハ一切ヲ
合シテ約一割五分ノ増加ニナシテ居ル、金額
カラ言ヒマシテ一億七千五百萬圓バカリ負
担ガ殖エルノデアリマスルガ、税率ヲ見マ
スルト云フト、從來超過所得ヲ別ニ致シマ
シテ、普通所得ニ對スル税ト附加稅、營業
百分ノ六ト致シマシテ、百分ノ一十四トナッ
テ、殆ド増稅ニナシテ居ナイト云フヤウニ
度法人稅ニ於テ百分ノ十八、營業稅ニ於テ

以下ノ分ニ對スル課稅ノ分ハ廢止シテ居ル、一審
其ノ他超過所得ト臨時利得トヲ統合シタルノ
デアリマスルガ、稅率ノ點ハ寧ロ前ヨリモ
幾分低目ニナツテ居ルト云フヤウナ關係ガ
アリマスルノデ、若シモ從來ノ通り稅金ヲ
損ニ見マスルト云フト、法人ニ對シテ相當
ノ負擔輕減ニナルノデアリマス、増稅ノ一
億五千七百萬圓ヲ得ラル、バカリデナク、
更ニ數千萬圓ノ負擔輕減ニナル、其ノ結果
致シマシテ、稅ヲ損ニ見ルト致シマスル
ト云フト、政府ノ原案ニ對シテ二億二千數
百萬圓ノ減收ニナルト云フノデアリマシテ、
是ハ稅率ノ點ヲ御考下レバモウ當然ノコト
ト云フコトハ御分リニナルコト思ヒマス
○橋本辰二郎君　只今ノ御説明ノ中ニ二箇
年ノ稅金ヲ一度ニ取ルンデナクシテ、矢張
リ前年ノ稅金ヲ取シテ、其ノ後年度ノ稅金ハ
翌年ニ廻ルト、斯カ云フヤウナ御話デアリ
マスガ、斯ウ云フ風ニナレバ、決シテ一時
ニ二度分ノ稅金ヲ負擔スルト云フコトニハ
ナラナイノデアリマスガ、併シドウ云フ風
ナ計算法デヤレバ宜シイノデアリマスルカ、
一體法人ノ決算期ト、ソレト總會ノ期トハ一
二箇月ノ間ガアリマシテ、總會ノ濟ング後
ニ稅務署ニ計算者ノ届ケラシマシテ、ソレ
ニ依シテ稅務署ガ之ヲ調査シテ查定スルノ
ハ半年、若シクハ一年位遅レルノデアリマ
シテ、其ノ年ノ利益ノ中ヨリシテ、其ノ年
ノ稅金ヲ引クト云フコトハ到底不可能ノヤ
ウニ思ハレマスガ、ソレハドウ云フ風ニシ
タラ宜イノデアリマスカ

ラシテ、ソレニ對シテ稅負擔ハドレ程ニナカト云フコトヲ見マシテ、之ヲ引當金ト致シマスト云フト、宜シイカト存ジマス、但シ今御話ノ通り稅務署ノ決定ハ一年トカラ一年半遅レルカラ計算ノ仕様ガナイト云フ御話デゴザイマス、ソレハ會社ノ決算ト稅務署ノ課稅上ノ計算トハ時ニ不一致ヲ來タス場合ガアルノデ、サウ云フ仰セガアルモト存ジマスケレドモ、是ハ別ニ稅金ヲ損ニ見ルノヲ、此ノ度損ニ見ナイコトニ改メタ結果ト致シマシテ、サウ云フ困難ガ起ルト云フノデハナクテ、從來ニ於キマシテモ稅金ヲ損ニ見ルト云フ扱ヒニ致シマシテモ、稅務署ノ決算ガ一年トカ一年半遅レテ居ルト致シマスルト云フト、其ノ間若シモ稅金ヲ損ニ見ナイデ居テ、サウシテ稅務署ガ一年時ニ二期分三期分モ決定シタ場合ニ其ノ時ニ損ニ出ル、斯ウ云フヤウニ致シマスレバ、マア計算ハ稅務署ノ方ト一致スルト云フコトニナルカ知レマセスガ、多クノ會社ハ會社ノ經理上カラ致シマシテ、前事業年度ノ所得ニ對スル稅ハ、翌期ニ於テ必ズ引當金ト云フヤウナモノヲ捨ヘテ損ニ計上シテ居ル、稅務署ノ決定ガアラウガナカラウガ、サウ云フ風ニシテ引當テトシテ計上シテ居ルトスウ云フヤウナ狀況デアリマシテ、ソレハ又各期トモ其ノ時ノ分ノ稅ヲ支拂ツテ行クト云フ風ニスルノハ會社ノ經理上結構致シマスレバ、ソレハ從來翌期デ引當テヲナコトデアリマシテ、サウスルノハ正ニ當云フダケデゴザイマシテ、其ノ間何等稅務署ノ決定ノナイ内ハ計算上困ルト云フ問題ハ別ニ新シク起ツテ來ナイノデハナカラウ

○委員長(伯爵林博太郎君) 休憩致シマシ
テ、午後一時半ヨリ開會致シマス
午後零時四分休憩

午後一時三十七分開會

○委員長(伯爵林博太郎君) 只今カラ特別
委員會ヲ開會致シマス、橋本辰二郎君
トニ關シマシテハ、休憩中國稅課長ト懇談
致シマシテ、略、會得スル所ガアッタノデアリ
マスガ、是迄ノ例ニ依リマスルト云フト、
稅金引當トシテ積立金ヲスル會社モ往々見
受ケタヤウデアリマスルガ、是ハ利益ノ處
分トシテ矢張リ課稅ヲ受ケテ居リマシタガ、
今後ハ其ノ年ニ於キマスル利益ノ中ヨリ課
稅ニ相當スルモノナド弾キ出シマシテ、之ヲ
除キマスレバ、除クト云フコトハ、結局決
定ヲ受ケル迄ノ間ニ借出トカ若シクハ稅金
引當ト云フコトデ積ンデ置クト云フコトニ
ナリマスト、ソレニ對シテハ利益ノ處分ト
看做サズシテ、課稅ハ免レルノデアリマセ
ウカ

○政府委員(大矢半次郎君) 法人稅ノ中所
得ヲ對象トスルノハ、其ノ所得其ノモノヲ
標準ニスルノデゴザイマスカラシテ、從ツテ
稅金ヲ差引きカナイ元額ヲ見ル譯デゴザイマ
ス

○橋本辰二郎君 サウ致シマスルト云フト、
矢張リ稅金ニ引當テルベキモノニ對シテ課
稅ヲ受ケルノデアリマシテ、茲ニ世間デ申
シテ居リマスル所ノ二重課稅ヲ受ケルヤウ
ナ感ジガ致シマスルガ、サウ云フ風ニ御取
リニナリマセウカ

合ニ於キマシテモ、例ヘバ俸給所得ガ年ニ
一萬圓アル、其ノ場合ニ分類所得稅トシテ
百分ノ六課稅スルト云フ場合ニハ、一萬圓
其ノモノヲ見ル、一萬圓カラ百分ノ六ヲ差
引イタ後ノ殘リヲ課稅標準ニシテ、百分ノ
六ヲ課稅スル、斯ウ云フ譯デハゴザイマセ
ヌ、法人ニ於テモ稅ニ相當スル分ヲ引カナ
イノヲ課稅標準ニ致シタイト存ジテ居リマ
ス、所得其ノモノニ對シテ或ル「バーセンテ
イジ」デ稅ヲ負擔シテ貰フト云フ趣旨デゴザ
イマスカラシテ、稅ノ分ヲ差引カナイモノ
ニ對シテ課稅スル、別ニ稅ニ稅ヲ二重ニ掛
ルト云フノデハアリマセヌデ、所得其ノモ
ノヲ課稅對象トシテ課稅スル、是ダケノ話
ダト存ジマス

ナルト思フノデアリマスガ、所得ヲ標準トシテ課稅スル場合ニハ、所得之ノモノヲ見テ、サウシテ百分ノ十トカ、百分ノ七八ト云フ課稅率デ課稅スル、是ダケノ話デアリマスカラ、消費稅ノ場合ニ、今申述ベタヤウニ、稅ニ稅方掛ルト云フヤウナ場合ガ起ツテ來ナイ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ稅ヲ損ニ見ナイガ爲ニ、ドレダケ負擔ガ重クナルカト云フノハ、是ハ比例稅デアリマスレバ直グ簡單ニ出テ來ルノデアリマス、例ヘバ百萬圓ノ所得ノアル場合ニ、二割ノ課稅ヲスルト考ヘマスト云フト、從來ハ百萬圓ノ二割、即チ二十萬圓ヲ差引イタ後ノ八十萬圓ニ對シテ課稅スル、斯ウ云フコトニナルノデアリマスガ、此ノ度ハソレヲ差引カナイ百萬圓ニ對シテ課稅スル、斯ウ云フコトニナシテ居リマスルカラシテ、結局稅率デ二割五分程度ト、高クナル、斯ウ云フコト同ジニナルノデアリマスガ、臨時所得稅ノ方ニ於キマシテハ、稅ヲ損ニ見ナイガ爲ニ、資本ニ對スル利益歩合ガ年百分ノ十以上ニナルカ、或八百分ノ二十以上ニナルカト云フコトデ、計算ガ餘程變ッテ來マスノデ、從ツテ各會社ノ收益狀況如何ニ依ツテ色々ニ變動ガ生ジテ來マスノデ、之ダケニ依ツテ此ノ課稅標準ノ計算方法ヲ變更スルコトニ依ツテドレダケ負擔ガ重クナルカト云フコトハ、臨時利得稅ノ如キ超過累進稅デ課稅シテ居ルモノニ付テハ中々計算ガ困難デゴザイマス、ソレデ全國ノ各法人ヲ通算致シマシテ見マスルト云フト、大體今度ノ改正案ハ從來ノ稅率ヨリモ低イ、幾分稅率ノ點ニ於テハ低目ニナシテ居リマスガ、實際ノ負擔ノ程度ハ一割五分度程高クナルト斯ウ云フ結果ニナル、個々ノ法人ニ

○橋本辰一郎君　此ノ税金ヲ経費ト認メザル關係ヨリ生ズル感じニ付キマシテハ、我々ハドウモニ重課税ヲ受ケルヤウニ思フノデアリマス、併シ是ハ要スルニ此ノ事ニ關スル觀念ノ相違ト思ヒマシテ、マアソレハソレ致シテ置キマス、又此ノ税金ヲ経費ト見做サヌ爲ニ生ズル增收ハ幾ラト云フコトハ計算ガ困難ダト云フコトデアレバ是モ宜シウアリマスガ、就キマシテハ委員長ニ御願ヒシテ置キマス、此ノ問題ニ關聯シテ他ノ委員ヨリ御發言ノ御希望ヲ私迄御申越ガアリマシタカラ、私ハ此ノ問題ニ限ッテ其ノ御方ニ御發言ヲ願ヒマシテ、御濟ミニナッタ後再び私ニ發言ヲスル機會ヲ御與ヘ下サルヤウニ御願ヒ致シマス、野村サンドウゾ……

○委員長(伯爵林博太郎君)　關係事項ナラバ今野村君ニ願フケレドモ、サウデナケレバ順序ガアル

○野村徳七君　私ハ止メマス

○委員長(伯爵林博太郎君)　サウスレバ安宅サンニ丁度順序ガナツテ居リマス

○安宅彌吉君　今ノニ關聯シテ居ルコトモアリ、關聯シナイコトモアリマスガ、三四ノ問題デ承ツテ置キタイト思ヒマス、第一ニ先程課長サンニ確メタノデスガ、私ハ明確ニ確メテ置キタイト思ヒマス、税ノ積立ヲ今後シナクチヤナラヌ、詰リ利益ノ分配トシテ税ヲ納メルト云フ觀念カラ行キマスト云フト、其ノ期、其ノ期デ税ト云フモノヲ積立ヲスル、税額相當金ヲ積立ヲスルト云考ヘテ居リマス

○政府委員(大矢半次郎君) 所得稅、臨時利得稅ニ相當スル引當金ハ同族會社ノ加算稅率ノ適用ニ當リマシテハ社内留保ト認メマセヌ

○安宅彌吉君 次ニ同族會社ノ加算稅率ニ關係スルコトデアリマスガ、今度範圍ガ擴ガシテ居リマスガ、凡ソ加算稅率ハ純企業會社ノ意味デアリマス、純企業會社ニ對スル加算稅率ノ政府ノ豫定ノ收入ト云フモノハ幾ラデアリマスカ、

○政府委員(大矢半次郎君) チヨット取調ベテ後デ御答へ致シマス

○安宅彌吉君 ソレハ相當ニ金額ノ大小ニ依ツテ私共ノ考モ違ツテ來ルデセウガ、後デ宜シウゴザイマス、今度ハ同族會社ノ中ノ純企業會社ニ對シマシテハ餘程緩和サレテ居ルト言フガ、矢張リ相當ノ制限ガアル、加算稅率ナント言フモノガアルト思フ、ソレデ一般ノ營利會社ハ資本額以上ノ積立ヲシテ居ル會社ガ澤山ゴザイマス、同族會社ニ限ツテ當相ノ制限ヲサレ、純產業企業ヲ目的トスルモノデモ、矢張リ加算稅率ヲ掛ルト云フコトノ趣意ハ何處ニアルノデスカ、又ドノ位ノ社員ノ數ガアリ、或ハ配當ヲ幾ラ以上スルモノニ付テハ一般企業會社ト同様ニ取扱フト云フヤウナ思召ハナイノデアリマセウカ

事業ヲ主トシテ營ンデ居ル會社ニ付キマシテ更
テハ、從來共財產ノ保全ヲ目的トスル同族
會社ヨリハ、同族會社ノ加算規定ノ適用上、
餘程是ハ緩和致シテ居ルノデゴザイマスル
ガ、此ノ度臨時租稅措置法ニ於キマシテ更
ニ財產ヲ保全スル同族會社ト、事業ヲ主ト
スル同族會社トヲ區分致シマシテ、是ガ適
用スル場合、及適用スルト致シマシテモ、
其ノ稅率ノ程度ト云フヤウナモノノ餘程緩
和シタ次第アリマス、之ヲドノ程度配當
シテ居ル場合ニ、事業會社ニ對シテ課稅シ
ナイカ、ト云フ御尋デゴザイマスケレドモ、
是ハ抽象的ニ申上ゲ兼ネルト思フノデアリ
マシテ、一般ノ同族會社ニ非ザル會社ガ、
通常此ノ程度ノ利益ヲ擧ゲレバ此ノ程度ヲ
配當シテ居ルト云フ風ニソレヲ見マシテ、
ソレトノ權衡ヲ取ッテ居ル、從ヒマシテ最近
ノヤウニ普通ノ事業會社ニ對シマシテモ、
國家總動員法ノ發動ニ依リマシテ、配當制
限ガ行ハレルヤウニナッテ來マシテカラ、同
族會社ニ對スル加算稅ノ規定ノ運用ニ於キ
マシテモ餘程變ヘテ來タノデアリマスガ、
將來斯ウ云フ方面ノ變更ニ依テ、又多少ノ
適用ノ條件モ變ツテ來ルト思フノデアリマ
ス、要ハ他ノ普通ノ事業會社ガ或ル程度ノ
利益ヲ擧ゲルト、是位ノ配當アヌルグラウ
ト云フノガ大體ノ標準ガアルノデアリマス
ルカラシテ、其ノ標準程度ヲ配當ヲ致シテ
居ルヤウナ場合ハ、同族會社ヲモ事業ヲ營
ンデ居ル場合ニハ加算稅ノ適用ハシナイト
斯ウ申上ゲタイト存ジマス、ソレカラ株主
ノ數ニ付テノコトデゴザイマスルガ、株主
ノ數ニ付キマシテハ餘リ深ク考慮ハ拂ツテ居
ナイノデアリマスケレドモ、是モ併シ數百

○ 安宅彌吉君 同族會社ノ純企業會社ニ對シテ一般ノ企業者ト差別シテ居ラレルト云
フ理由ハ何處ニアルノデスカ

○ 政府委員(大矢半次郎君) 別ニ差別ハ致シテ居リマセヌ、從ヒマシテ同族會社ニ非ザル一般ノ企業會社ノ經營方法ト同ジヤウナ經營方法ヲ致シ、配當ヲ致シテ居ル場合ニハ加算稅ノ適用ハ致サナイノデアリマシテ、同族會社ナルガ故ニ相當利益ヲ享ゲテ居テモ配當セズニ置クト、斯ウ云フヤウナ場合ニ他ノ純然タル企業會社、及個人ノ負擔ト云フモノノ均衡ヲ圖ツテ加算稅ノ適用ヲ致スト斯ウ云フ次第ゴザイマス

○ 安宅彌吉君 一ツ確カメテ置キタイモノデスガ、今ノ御話ハ要スルニ同族會社ト認メラル、モノト雖モ、一般企業會社ト同等ニ相當ノ配當ヲ爲シテ居ルモノニ對シテハ、加算稅率ノ適用ヲ免除シテ居ラレルト、斯ウ云フ風ニ承知シテ宜シイノデスカ

○ 政府委員(大矢半次郎君) 左様ゴザイマス

○ 安宅彌吉君 ソレデ全國的ニサウ云フ御取扱ヲシテ居ラレルノデセウカ、特殊ノ少數ノ人ダケニ對シテオヤリニナッテ居ルノデセウカドウデセウカ

○ 政府委員(大矢半次郎君) 是ハ全國的ニ統一シテ左様致シテ居リマス

○ 安宅彌吉君 償却ノ問題デ伺ヒタイノデ建物、機械、器具其ノ他固定資産ノ減價償却ニ對スル年限デアリマス、從來政府ノ方デハ内規ニ依ツテ御取扱ニナッテ居ルノデアマス

リマシテ、其ノ内規がハツキリ判ラナイ提
合ガアルヤウデアリマス、最近ニハ非常ニ
償却率ヲ高メテモ宜イヤウナ御取扱ニナ
タト云フノデアリマスガ、是ハ個人ト法
トノ間ニ其ノ取扱ガ違フカドウカ、ソレカ
ラ豫メドウ云フモノニ對シテハドノ位ノ償
却率ヲ御認ミニナルカト云フコトヲ御示シ
ニナルト云フ御考ハナイノデアリマスカ
○政府委員(大矢半次郎君) 償却ニ付キマ
シテハ數年前迄ハ個人ニ於キマシテハ或特
殊ノモノ以外ハ之ヲ認メテ居ナカッタノ云
アリマスガ、確カ昭和十三年支那事變特別
稅法ノ制定ニ當リマシテ、個人ニ付テモ償却
ヲ認メルト云フコトニシタノデゴザイマス
サウシテ償却ノ歩合ト云フノハ法人ト個人
ト何等選ブ所ナイ、同様ニ致シテ居ルノデ
アリマスガ、唯實際ニ於キマシテ法人ト達
ヒマシテ、個人ノ場合ニハ收支計算ヲ明カ
ニスルトカ、帳簿ヲ備ヘテ居ルモノガ割合
ニ少ナイノデゴザイマスカラシテ、法人ト達
全ク同様ノ施行條件ニ依ルト云フコトハ申
ゲ上兼ネマスケレドモ、其ノ計算方法サヘ
キチントシテ居レバ、法人個人ト全ク同様
ニ扱フ積リデゴザイマス、ソレカラ減價償
却ノ歩合表ハ御手許ニ配ツテ居リマス租税
法規中ノ末尾ノ方ニ全部載ツテ居マスカラ
シテ、是ハ今日モウ總テ公表シテ居ル次第
デゴザイマス

○ 安宅彌吉君 尚一應伺ヒタノハ、個人ノ營業所得ト云フモノニ能ク叱言ガアルノデアリマス、ソレハ個人ノ營業所得ト云フモノハ推定ニ依ラレルト云フノデ、實績ニ依ッテ欲シイト云フ希望方相當ニ多イヤウデアリマスガ、今後ハドウ云フ風ニ御取扱ニナルノデスカ、希望ニ依ッテドチラデモオヤリニナツテ居ル譯ズスカ

○ 政府委員(大矢半次郎君) 推定ニ依ッテヤツテ居タガ、今後ハ實績ニ依ッタラト云フ御話ゴザイマスルガ、恐ラク從來モ實績ニ課税スルガ、其ノ收支ノ實績ト云フノハナカノ明瞭デナイカラ、推定ニ課税シテ居ルト、斯ウ云フコトニナツテ居ルデナカニラウカト思ヒマス、帳簿ヲ備ヘテ居リマシテ、ソレガ正確ニ收支計算モ明カニナツテ居リマスレバ、勿論ソレニハ據ルベキデアリマス、又實際サウ致シテ居リマス、帳簿ノ備付ガナカツタリ、其ノ計算方亂雜ニナツテ居ルト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、他ノ同業者トノ權衡ヲ見テ、或程度推定シテ課税スルト云フノハ是ハ又實際已ムヲ得ザルニ出テ居ルコトゴザイマス

○ 安宅彌吉君 従來ヨク割合ニ叱言ヲ聞クノハ、何ノ商業ハ一割儲カル、ドノ商業ハ七分儲カルトカ云フ風ニ、稅務署ノ方デ何カ「パー・ゼン・テージ」ノ何カ内規ミタイナモノガアツテ、ソレデ何ト云ツテモ帳面ノ三冊、五冊モ持ッテ行ッテモドウシテモ御許シニナラヌ、斯ウ云フ苦情ガ多イノデアリマス、ドチラガ正シイノカ私ハ分リマセヌガ、帳簿ノ組織ガ不完全ダト云フノデアリマスカ、ドノ位ノ程度ナラバ宜イト云フ矢張リ標準ヲ御示シニナツカ方ガ宜イノデヤナイカト

思フ節ガアルノデアリマス、サウセヌト云
フト帳面ノ非常ニ微ニ入り細ニ入ッテ帳面
ヲ整頓スルト云フコトハ普通ノ商賣人デヤ
出来ナイカモ知レナイ、個人ノ小サナ商人
デハサウ云フモノニ對シテハ凡ソ會議所等
色々ノモノガアリマスカラ、其ノ手ヲ通ジ
テサウ云フ所デ準備サシテ、此ノ位ノ程度
ノ帳面ヲツケレバオ前達ノ實績ヲ調査シテ
ヤル、推定デハヤラナイト云フヤウナ何カ
ヤリ方ハナイデセウカ

テ源泉デ比例税トシテ課税セラレテ居リマスモノヲ、此ノ度全額綜合課税ニ致シマス
ト云フト多額所得者ノ負擔ハ激増スル、ソ
レヲ緩和スル意味ニ於キマシテ四割控除致
シタノデアリマシテ、ソレハ別ニ金融資本
ヲ擁護スルトカ、産業資本ヲ虐待スルト云
フ意味デハアリマセヌ、全ク兩者同様ノ經
過ヲ辿リテ居ル、唯是ガ變更スル時ニ遲速ガ
アルト云フダケデ、兩者同様ニ致シテ居ル
ト云フコトヲ申上ゲテ置キタイト存ジマス、
其ノ次ニハ株式取得ニ要シタ借入金ナルヤ
否ヤトノ立證ノ責任ハドチラニアルカト申
シマスレバ、是ハ兎モ角株式取得ニ要シタ
借入金デナケレバ引カナイ、一般ノ債務ノ
利息ヲ引クト云フ譯デハゴザイマセヌカラ
シテ、是ハドウシテモ御本人ニ於テ立證シ
ナケレバナラスト存ズルノデアリマス、ソ
レカラ經過的ニ多少寛大ニスル必要ガ
アルデハナカラウカト云フ御話デゴザイマ
シテ、私共はハ御尤モダト存ジマス、將來
ノ株式取得ニ要スル借入金ハ是ハ明瞭ニ立
證シ得ル途ガアルダレデアリマセウケレドモ、
從來ノモノニ付キマシテハサウ云フ點デ相
當難點ガアルダラウト思ヒマスカラシテ、
サウ云フ事情ハ私共十分諒承致シマシテ、
之ガ實施ニ當リマシテハ出來ルダケ苛酷ニ
瓦ラヌヤウニ十分留意致サセル積リデゴザ
イマス、ソレカラ第三ト致シマシテ地面ヲ
買フ爲ニ借金ヲシテキタ、一方ニ於テ株ハ
借金無シデ持ツテ居タガ、之ヲ株式ヲ擔保ニ
シテ地面ヲ買シタト云フ場合ニ、其ノ儘デ其
ノ借金ノ利息ヲ株式取得ニ要シタモノト見
テ差支ヘナイカト云フコトデアリマスケレ
ドモ、是ハムツカシイト思フノデアリマス、
ソレヲヤカマシク言ヘバ結局株ヲ賣ツテ借

其ノ通リニナルデハナイカ、斯ウ云フ仰セ
デゴザイマス、其ノ通リヤレバ正ニサウ
ナルト思フノデアリマ、ケレドモ、一遍持
テ居ル株ヲ賣ツテ地面ヲ得ル爲ノ借金ヲ返
シテシマッタ、ソレカラ新シク株ヲ買フ爲ノ
借款ナラバ之ヲ引クノハ當然デアリマスル
ガ、唯サウ云フコトモアリ得ルカラシテ、斯
苟モ株式ヲ擔保ニシテ借金シテ居ル場合ハ
其ノ用途ノ如何ニ拘ラズ差引イテ株式取得
ノ必要金トシテ見ルベキデハナイカト、斯
ウ言ハレルノハ、私ハ御無理カト存ジマス、
要スルニ資金ト云フモノハ色々ノ用途ガア
ルノデアリマシテ、時ニ依リ其ノ用途ガ變ッ
テ來ルト云フコトハ是ハ自然ノ趨勢デ、之
ヲ稅務デ阻止スル積リモナインデアリマス、
從ヒマシテ他ノ財産ヲ處分シテソレデ或借
金ヲ返シタ、サウシテ又何カノ必要ニ依ッテ
又銀行カテ借金シテ株式ヲ取得スルト云フ
コトニスレバ、ソレハ株式取得ノ爲メノ借金
ダト見ラルベキデ、是ハ當然デアリマス、
其ノ事アルガ爲ニ現ニ株式ヲ擔保ニシテ他
ノ方面ニ使ッテ居ル資金ダト云フコトガ明カ
ナ場合ニ於テモ、株式取得ノ必要經費トシ
テ其ノ借入金ノ利息ヲ見テ吳レト言ハレマ
シテモ、ソレハ出來マセスト申スヨリ外ナ
イト思ヒマス

○政府委員(大矢半次郎君) 今地面ト云フ
御話デゴザイマスケレドモ、例へば貸地ヲ
取得スル爲ニ株ヲ擔保ニシテ銀行カラ借金
シタ、斯ウ云フ場合ニ借入金ノ利息ハ貸地
取得ノ計算ノ場合ニ必要經費ニ見ラレテ居
ルノデアリマス、ソレヲ株ヲ處分シテサウ
シテ借金ヲ返シタ、サウシテ又新シク借金
シテ同ジヤウナ銘柄ノ株ヲ買ツタト致シマ
スト云フト、今度ハ貸地取得ノ計算ニ於テ
ハ借入金ノ利息ハ經費ニ見ナイ、株式取得
ノ方ニ於テ經費ニ見ル、是ダケノ話デアリ
マシテ、資金ノ用途ガ違ツテ來レバ自ラ課
稅ノ計算ニ於テモ亦變ツテ來ナケレバナラ
ヌト、斯ウ云フ次第デゴザイマス

○安宅彌吉君 次ニ相續稅ノ問題デモウ一
ツ承リタイノデアリマスガ、相續稅ノハ今
度ハ二年乃至三年延ビタ譯デアリマスネ、
免除スルトカ半減スルト云フ問題ハ延ビ
タ、唯續稅ヲ支拂フ時分ニ不動產ガ多イト
カ、容易ニ換價シ得ザル財產ガ多イ時分
ニ、之ニ對スル評價ノ方法ガ若シ間違フナ
ラバ二重ノ苦痛ガ掛ル譯デス、今ノ相場ガ
幾ラ、或ハ此處ノ地所ガ幾ラ、此ノ下ノ地
面ガ幾ラト云フコトハ大藏省ノ方ダケデ御
ノ議論ガアツテ、政府ニ於テモ物納ニ付テハ
トカ云フコトガ出ストモ限ラヌ、其ノ取扱
上デスネ

著手ニナルコトヲ私ハコチラニモ願ヒタイト
委員會ヲ設ケテ御ヤリニナル、是ハ直チニ
思ヒマス、サウシテ物納ヲ認メルト云ア前ニハ
信用スベキ例ヘバ信託會社ト云フヤウナモ
ノデ不動産ノ經営ノアル人ニ本當ニ賣買サ
レル値段ハ幾ラナンデアルカ、唯「ブック・ヴ
アリユーノト言フカ、紙ノ上ノ「ヴアリユーノ
デナクテ換價シ得ベキ、金ニ換ヘ得ベキ實
質的値段ヲ評價スルト云フコトハ私ハ非常
ニ必要デアルト思ヒマス、サウ云フ議ガ合
ハヌ時ニハドウ云フ風ニナサルカト云フコ
トヲ御考ニナラケレバナラナイ、役所ノ
方ト民間ノ信用スベキ人トガ評議シテモ實
際ソレガ賣リニクイト云フ場合ガ多イカモ
知レス、サウスルトサウ云フモノニ對シテ
ハ矢張リ特定ナ期限内ニ賣ラナクチヤナラ
スカドウカ、物ヲ政府ガ御取リニナレバ申
シ分ナインデアリマス、併シ政府ガ物ヲ御
取りニナラヌト云フ御決議ニナツタ時ニハ餘
程困難ナ問題ガソヨニ出テ來ルノデハナイ
カ、不動産ヲ持テ居ル人ハ困難ナ問題ガ
起ツテ來ルノデハナイカト云フコトガ一ツデ
アリマス、ソレカラ一昨日申上ゲタ市場性
ノナイ株式ノ評價ト云フコトハ、私ハ非常ナ困
難ガ伴フノデヤナイカ、サウ云フ時ニ之ニ
云フヤウナモノノ勘定デ、市場性ノナイ株
券ヲ評價スルト云フコトハ、私ハ非常ナ困
難ガ伴フノデヤナイカ、サウ云フ時ニ之ニ
對シテ政府ガ要求サレル擔保デアリマス、
稅ノ猶豫期限内ニアル間政府ノ要求サレル
擔保ト、ソレカラ價格ト云フモノニ付テハ
ドウ云フ風ニ評價サレルカト云フコトヲ一
遍承ツテ置キタイノデアリマス

○政府委員(大矢平次郎君) 相續稅ノ課稅
ノ場合ノ不動產評價ノ點デアリマス、是ハ
結局物納制度ヲ採ルト致シマシテモ其ノ前
提トシテ不動產ノ評價ノ適正ヲ期サナケレ
バナラヌト思フノデアリマス、又一面不動
產ノ評價方適正ニナレバ自ラ物納ト云フ問
題モ其ノ大部分ハ解消シテ來ルコトカド存
ズルノデアリマス、ソレデ今相續開始ヲシ
タ場合ニ役所バカリデナク、民間ノ信託會
社等ノ意見モ十分聽イテ評價シタラ宜イデ
ハナカラウカト云フ御話デゴザイマスルガ、
實際今不動產等ノ評價ニ付テドウ云フコト
ヲ致シテ居ルカト云フコトヲ申上ゲテ一應
御了解ヲ得タイト存ジマス、御承知ノ通り
昭和十二年ニ於キマシテ地租ノ課稅ノ標準
タル土地賃貸價格ノ改訂ヲ致シタノデアリ
マスガ、此ノ場合ニ於キマシテハ全國ノ稅
務官廳ヲ總動員致シマシテ不動產ノ賃貸價
格評價ト云フモノヲ隨分詳細ニ調査致シダ
ノデアリマス、此ノ場合ニ於キマシテハ勿
論信託會社方面ノ意見或ハ勸業銀行ノ意見
ト云フモノモ十分ニ參酌致シテ、賃貸實例、
賣買實例モ能ク調べテ、サウシテ民間土地
賃貸價格調査委員會ノ議ニ付シテ定メタノ
デアリマス、勿論是ハ時價ヲ定メタノデハ
ナク賃貸價格ヲ見タノデアリマスケレド
モ、自ラ時價モ相當程度詳細ニ調ガ出來テ
居リマシテ、民間ノ意見モ十分參酌セラレ
テ居ルノデアリマスガ、相續開始ヲシタ場
合ニ於キマシテハ大體最近ハ之ヲ基礎ニ致
シマシテ、サウシテ一定ノ收益率デ還元ス
ルト云フヤウナコトモ致シ、一方ニ於テハ
更ニ最近ノ賣買實例、賃貸實例等モ蒐集致
シマシテ適當ニ之ヲ補正シテ全國的ノ統
一ヲ期スル、斯ウ云フ風ニ致シテ居リマス

ノデ、大體サウ著シイ不均衡ナクヤッテ居ル積リデアリマス、併シナガラ實際相續ヲ開始シタ場合ニハ矢張リ依然トシテ評價ニ付テ問題ガアリマスノデ、將來尙之ガ適正ヲ期シタイト思ッテ居リマスガ、個々ノ相續開始ノ場合ニ一々民間ノ方ノ意見ヲ徵シマシテ、其ノ價格ヲ評定スルト云フコトハ實際問題トシテ因難デハナカラウカ、方々ニ澤山土地ヲ持ツテ居ル人ガ亡クナッタト云フヤウナ場合ニ、全國ニ散ラバッテ居ル評價ヲ或民間ノ人ニ頼ムト致シマシテモ、是ハナカヽ容易デヤナイト思フノデアリマス、要スルニ全國的ニ大體標準トナルベキ評價ト云フモノヲ定メテソレノ適正ヲ期シテ、サウシテ其ノ近傍ノ土地ニ付テ相續開始ヲシタ場合ニソレニ準據シテ見テ行クノガ一番宜イデハナイカト思ツテ居リマスガ、尙不動產ノ評價ニ付テハ今後モ十分留意シテ、出來ルダケ適正ヲ期スルヤウニ致シタイト存ジテ居リマス、ソレカラ市場性ノナイ株ノ評價ヲスルニドウ云フ風ニスルカト云フ仰セデゴザイマス、是ハ私ガ申上ゲル迄モナクモウ安宅サン十分御承知ノコトト存ジマスガ、此ノ評價ト云フモノハナカヽ困難デアリマスケレドモ、今御存ジノヤウニ拂込金額ガ幾ラ、積立金ガ幾ラ、ソレダカラ是ダケノ價格ガアルト云フ風ニハ決シテ致シテ居リマセヌ、其ノ事業年度ノ収益ノ狀況ヲ見マシテサウシテ事業ノ種類、或ハ不動產、有價證券ノ種類ヲ見マシテ、ソレカラ還元致シマシテ時價ト云フモノヲ見ル、或ハ又正味資產價額ト申シマスカ、不動產ナラバ實際ノ時價ガ幾ラニナツテ居ルカ、斯ウ云フ點、機械器具ニ付キマシテモ大體ノ評價ト云フモノハ分ルモノデアリマスカラサウ云フ點

○政府委員(大矢半次郎君) ソレハ私ノ申上ゲ様ガ少シ不十分デアツカモ知レマセ
濟界ノ變動ト、チャント當局ガ或一定期間ニ時々賃貸價格ナリ、評價ヲサレル其ノ臺帳ガアル、ソレトドウ云フ風ニソコニ協調ヒガ出來ルノデヤナイカト思ヒマス、經會社ガアリマシテ、ソレガ市場性ノアル株式ニナッテ居ル場合ニハソレ等トノ比較モ見ルト云フヤウナ方法デ色々ノ方面カラ此ノ評價ノ適正ヲ期シテ居ル、斯ウ云フ譯デアリマス、而シテサウ云フ市場性ノナイ株ガ相續財產價格ノ中ニ大部分含ンデ居ル場合ニ、擔保ノ價格ヲドウ見ルカト云フ御話デゴザイマスケレドモ、ドウモ市場性ノナエ株式ヲ擔保ニ取ルト云フ譯ニハ行カナイトイ存ズルノデアリマシテ、其ノ場合ニ於キマシテハ昨日モ申上ゲマシタ通リ其ノ會社ノ所有シテ居ル有價證券、或ハ不動產トカヲ擔保ニ差入レルトカ、或ハ又近親ノ人ニ保證人ニナッテ戴クト云フヤウナ方法デ自ラ適當ニ道ガ開カレルノヂヤナイカト思ヒマスガ、市場性ノナイ、融通性ノナイ株ヲ相續稅ノ擔保ニ國ガ取ルト云フ譯ニハ參ラナイカト存ジテ居リマス

又ケレドモ、地租ノ課稅カラ言々タラ賃貸
價格ハ十年ニ改訂致シマス、一旦定メテ
ソレヲ動カサナイデ置ク不動產ニ付キマシ
テハ大體各稅務監督局ニ於キマシテ所轄ノ
稅務署間ノ統一ヲ取ッテ、大體不動產ノ時
價標準表ト云フモノヲ作ッテ居リマス、各町
村ニ標準トナルベキ田畠烟ナラバ田畠一段
歩當リノ價格ハドノ程度ト、市街宅地ニ付
キマシテモ現行ノ土地賃貸價格カラ逆算致
シマシテ、ドノ程度ノ價格ナラバト云フコ
トヲ見テ居リマスガ、ソレハ毎年經濟界ノ
變動或ハ土地ノ、殊ニ宅地等ニ付キマシテ
ハ盛衰ノアルモノデアリマスカラ、ソレ等
モ加味シテ適宜補正ヲシテ行ク、斯ウ云フ
方法ニ依リマシテ實情ニ副フヤウニ致シテ
居リマスガ、是モ一應標準デハアリマスケ
レドモ、サウ細カク出來テ居ル譯デモゴザ
イマセヌカラ、從ヒマシテ實際相續ヲ開始
シタ場合ニ宅地等ニ付キマシテハ或ハ裏地
トカ、特ニ面積ノ廣イ處デ、他ノ面積ノ
處ト同ジヤウニ一坪當リ幾ラト云フヤウニ
致シマスト、評價ガ高過ギルト云フ場合ハ
實地ヲ能ク視テ適宜取捨シテ居リ、大體ノ
目安ハ標準表ニ依ルケレドモ、個々ノ相續開
始ノ場合ハ尙實情モ出來ルダケ調査シテ課
稅ノ適正期スル、斯ウ云フ風ニ致シテ居
ルノデゴザイマス

ガ一番良いト云フコト、ソレカラ擔保ニナル不動産ヲ持ッテ居ル人ハ、其ノ不動産ヲ、擔保ニ御認メナシテ居ルノデスカ
○政府委員(大矢半次郎君) 不動産ノ擔保ハ認メテ居リマス、土地モ認メテ居リマス、ソレカラ家屋モ火災保險ニ附シタ家屋ナラバ認メテ居リマス

○安宅彌吉君 評價ノ方法トシテ賣ル相場ト買フ相場ト兩方アルト云フコトヲ御承知ノ上デ御認メニナシテ居ルノデアリマスカ
○政府委員(大矢半次郎君) 通常ノ取引、特殊ノ商品ヲ賣ルトカ或ハ又銀行等ニ於テ是非欲シイト云フノデ買フトカ、サウ云フ例外ノ取引價格ニ依ラナイデ、通常賣手、買手デ話ガ纏ル程度ノ價格ヲ標準ニシテ居ルノデゴザイマス

○安宅彌吉君 今ノ市場性ノナイ株券ノコトニ付キマシテ配當ナリカラ還元シテ値段ヲ定メルトカ、或ハ又外ノ市場性ノアル株券ノ値段ヲ標準ニナサレルト云フコトヲ今御話ノヤウデスガ、市場性ノアル株券トナイ株券ハ大變ニ値ガ違フノデアリマス、少し市場性ノアルノト、大イニ市場性ノアル株ト同ジ配當ヲシテ居ッテモ非常ニ値段ガ違フノデアリマス、サウ云フ點ハ矢張リ政府ノ方デ御考慮ニナルノデスカ

○政府委員(大矢半次郎君) 市場性ノナイ株ノ値段ト云フノハ、チヨット分リ兼ネマスガ、例ヘバ其ノ會社ノ實權ヲ或一部少數ノ者ガ握ツテキテ、サウシテ株式ノ小部分ヲ外部ニ出シテ居ル、利益ガ多イカラ配當シヨウト思ヘバ隨分高率ノ配當モ出來ルノデアルケレドモ、其ノ首脳者ガサウ配當スル必要ガナイト云フノデ比較的低イ配當ラシテ居ルト云フヤウナ場合ニハ、所謂市場デ

ノ取引價格ハ低イカ知レチイケレドモ、是ハ實際ノ内容、收益率トカ資產價格、サウ云フモノヲ見テ評價ナケレバナラナイト思ヒマシテ、サウ云フ場合ノ所謂市場價格ト申シマスカ、サウ云フモノハ適正ノモノデハナイト存ズルノデアリマシテ、私ハ寧ロサウ云フ場合モ市場性ノナイ株ダト、斯ウ見ルノガ適當グラウト存ズルノデアリマス
○橋本辰二郎君 關聯シテデスガ……
○委員長(伯爵林博太郎君) 順序ハ安宅君ノ次ガ大河内子爵、野村君トスウアルノデスガ……
○橋本辰二郎君 イヤ、私ハ先程ノ關聯シタル問題ニ付テ御讓リシタ譯デスガ、處ガ引續イテオヤリニナシタモノデスカラ……
○委員長(伯爵林博太郎君) ソレデヤ橋本君
○橋本辰二郎君 ソレデハ一つ私モ株式取得意子ニ付テ御尋ねシタイト思ヒマスガ、前質問者ト重複セザル範圍内ニ於テ御尋ね致シタイト思ヒマス、全國ノ株式ヲ擔保トスル借入金ハ幾何デゴザリマセウカ、而シテ其ノ中ノ幾何ヲ以テ株式取得ノ爲ニ要シタル借入金ト御認メニナシテ居リマセウカ、其ノ數字ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(田中豊君) 先程申上げマシタヤウニ株式取得ニ要シタル負債利子ト云フモノヲ調査致シテ居リマシテ、其ノ數字ガ六千四百六十二萬一千圓デアリマス、即チ株式取得ニ要シタル負債利子ハ今回ノ稅法ニ依リマシテ所得カラ控除スルコトニ致シテ居リマスノデ、負債利子ヲ控除スルト云フコトヲ仰セニナリマシテモ、市場性ノナイ株式ナシテ、自分ノ有金ヲ驅リ集メマシテ其ノ足ラス所ハ他方ヨリ借りテモ一時ノ急

○橋本辰二郎君 只今ノ御答辯ハ先程承り
マシタガ、ソレヲ元金ニ還元スルト幾何ニナリマセウカ、又之ヲ株式取得ノ爲ノ借入者ガ其ノ擔保ニ供シタル時期ト取得ノ時期ト異ナルガ爲ニ、是ハ株ノ取得ノ爲デナイト云フコトニ御認スニナルヤウナコトガ往々有リ得ルト云フコトヲ私ハ思フノデアリマス、何トナレバ御承知ノ通り所得稅ニハ署ヲシテ具體的ナ事例ニ付テ、原案ノ如ク税法ヲ改正致シタ場合ニ於テ控除スペキ利子額ト云フモノヲ調査致サセマシタノデ、其ノ合計ガ六千四百六十二萬一千圓デゴザイマス、從ツテ後ノ御尋ノ、ドウ云フ標準デ負債利子ト見ルカト云フコトニ付キマシテハ、
○橋本辰二郎君 此ノ政府ノ見ル所ニ依リ株式ヲ持ツテ居ル人ガ稅務署ニ分ツテ居リマス、スノデ、其ノ人人負債額ト云フモノヲ一應解釋デアラウト思フノデアリマスルガ、是非常ニ困タコトデアリマシテ、平素銀行ニ取引ヲ有シテ居リマス信用ノ高イ人々ハ、ハ非常ニ困タコトデアリマシテ、大部分ハ御認メニラズニ其ノ儘課稅ヲ受ケテ居ルカト思フニ足ラスト思ヒマス、聞キマスレバ稅務署ニ於リマス、或ハ政府ニ於テモサウ云フモノハ認メテ居ルトノ御話デアルカモ知レマセガ、ソレハ所謂九牛ノ一毛デアシテ、殆ド言フニ足ラスト思ヒマス、聞キマスレバ稅務署ニ於シテ、豫メ其ノ所得ノ標準率ト云フモノヲ各稅務署ニ於テ定メマシテ、其ノ表ニ基キマシテ米屋ノ口錢ハ五分デアル、炭屋ノ口錢ハ一割デアル、ソレデ米屋ノ五十萬圓ノ商ヒハ二萬五千圓ノ所得、炭屋ノ五十萬圓ノ賣上ハ五萬圓、斯ウ云フ標準ニ依ツテ課稅ス、デ且又銀行ニ於テ擔保ニ取りマスル株引ノ範圍ト云フモノハ極メテ狹イノデアリマス、日本銀行ノ見返擔保ニナル銘柄デナマス、銀行ヲ利用スルコトハ出來ナインデアリマス、
○橋本辰二郎君 取ラヌ銀行ガ多イノデアリマス、逆ニ此ノ株式ノ取得ノ利子ヲ控除スルト云フコトヲ仰セニナリマシテモ、市場性ノナイ株式ナシテ、自分ノ有金ヲ驅リ集メマシテ其ノ足ラス所ハ他方ヨリ借りテモ一時ノ急

○政府委員(大矢半次郎君) 先づ最初ノ株式ヲ擔保ニ入レタ時期ト借入ノ時期トガ同じデナケレバナラスト云フ風ニ見テ居ルヤウダガト云フ御話デゴザイマスルガ、サウ云フコトハ實ハ申シテ居ナイノデアリマス、株式ヲ擔保ニシテ借入レヤウガ、土地ヲ擔保ニシテ借入レヤウガ、或ハ信用デ借入レヤウガ、ソレハ構ハヌ、其ノ資金ノ用途ガ株式ノ元本取得ニ充テラレタ場合ニハ之ヲ引クト云フ、斯ウ云フ譯デゴザイマシテ、結局之ヲ推定スル場合ニハ其ノ銀行等ニ於テ借入金ヲ致シタ時期ト株ヲ取得シタ時期トガ大體一致シテ居レバ、之ガ推定ガ出来ルデハナカラウカトスウ云フコトヲ申上ゲテソレカラ普通ノ營業ノ場合ニハ法律上或ハ居ルノデ、其ノ株式ヲ擔保ニ入レタ時期ト買入レタ時期ト一致シナケレバ工合ガ惡イト云フコトハ申シテ居ナイノデゴザイマス、ソレカラ普通ノ營業ノ場合ニハ法律上或ハ其ノ營業ノ爲ニ借入レタ資金ノ利息ハ經費ニ見ルベキデアルガ、實際ハ所得標準率ヲ用ヒテ居ルガ爲ニ結局借入金ノ利息ハ經費ニ見ラヘナイヤウニチテ居ルデハナカラウカ、從ッテ株式ニ付テモ借入金ノ利息ハ經費ニ見ルト言ヒナガラ、實際ハ見ラヘナイ結果ニナルデハナカラウカト、斯ウ云フ御話デゴザイマスケレドモ、今商工業者ニ付ギマシテ此ノ營業ヲ營ニデ行ク爲ニ必要ナル借入金ノ利息ハ明瞭ニ分ル場合ニハ控除シテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ人ニ對シテハ所得標準率ノ適用ハ致サナイデ、實際ノ收支計算ヲ致シテ其ノ所得ヲ決定シテ居ル一度承リタイト思ヒマス

ト、斯ウ云フ譯デアリマス、唯中小ノ營業者ニ付キマシテハ帳簿組織モ完全デハゴザイマセヌ、又商賣向キト奥向キノ計算ヲゴツチヤニシテ居ルコトデ、サウ云フ爲ニ借入金ガアツテモ果シテ生活ノ爲ノ借入金デアルカ、營業ノ爲ノ借入金デアルカ分リニクイト云フ場合方多イノデアリマスガラシテ、從ツテサウ云フ場合ニ特ニ借入金ノ利息ヲ如何程ト云フ風ニシテ計算シテ差引イテ居ル譯デハアリマセヌガ、併シ所謂標準率ヲ適用スル場合ニ於キマシテモ相當借入金ノ多イ場合ニ於キマシテハ、其ノ利子ニ相當スル分トシテ或程度見テ居ルノガ實情デゴザイマス、此ノ度ノ株式取得ニ付キマシテ借入金ノ利息ヲ經費ニ見ルト云フコトハ、綜合所得税ノ賦課ヲ受ケル人ニ付テノミデゴザイマシテ、分類所得ニ付テハ之ヲ致シマセヌ、従ツテ全國ヲ通ジマシテ綜合所得税ノ納稅者ハ一十七八萬、此ノ中ニ家族ガアリマスカラシテ家族ヲ除キマシテ世帯數デ言ヒマスレバ十六七萬ト云フ程度ニナリマシテ、全體ノ所得稅ノ納稅者ノ割ニモ達シナイト云フノデゴザイマス、比較的多額ノ所得者デゴザイマスカラシテ、是等ノ納稅者ニ於テ借入金ノ利息ヲ經費ニ見テ貰ハウト致シマスレバ相當其ノ用意モ出來得ルクト存ジマス、稅務署ニ於キマシテモ又納稅者ノ數モ少イノデ殊ニ大所得者ノ方デアリマスルカラシテ、相當調査モ出來得ルコトト存ジマス

シマスル利子控除ニ付キマシテハ一通り御説明ヲ承リマシタケレドモ、是ハナカノ实行ガ困難デアラウト思ヒマシテ、私等ハ餘リ之ニハ期待ヲ置イテ居ラナイノデアリマスガ、兎ニ角此ノ法規ガ出来タ以上ハ成ルベク之ヲ活用スルヤウニ、餘リ御無理ナコトヲナサラヌヤウニ各税務署ニ一ツ御訓示ヲ願フト云フコトヲ私ハ御願ヒ申シテ置キマス、就キマシテ前質問者ノ質問ニ關聯シテ一ツ御伺ヒ致シマスガ、相續税ノコトデアリマスガ、相續税ハ相續開始ノ當時ニ於ケル所ノ時價ヲ以テ總テノモノヲ評價スルト云フ建前ニナツテ居リマスルガ、不動産ニ致シマシテモ有價證券ニ致シマシテモ、是ハ非常ニ其ノ動搖ノ激シイモノデアリマシテ、例へバ非常ナ好景氣ノ時ニ於テ或株券ガ三百圓致シマシタ、ソレガ三年モ經チマスト其ノ半額以下ニ下落シタ云フヤウナ場合モ往々アルノデアリマス、相續税ノ決定ト相續開始ノ間ニハ相當ノ期間ガアルノデアリマス、サウ致シマスト決定當時ト相續開始ノ時トハ此ノ資産ノ評價ニ非常ナ異同ヲ生ズル虞ガアルノデアリマス、又此ノ決定當時デナクテモ納稅ノ延期期間ニ於キマシテ甚ダシイ異同ガ生ズルヤウナ虞ガアリマスガ、サウ云フ場合ニ於キマシテハ特別恩典ト言ヒマスカ何カ致シマシテ、所謂營業所得等ニ於キマシテ減損更訂ト云フコトヲ御許シニナリマシタア、云フコトデモ適用セラレマシテ、納稅者ノ苦情ヲ緩和スルト云フヤウナ御考ハアリマスマカ

場合ニドウナルカト云フ問題ガ一方ニアルノデアリマス、ソレカラ相續開始當時ト數年後ト同ジヤウナ不動産ナラ不動産ト、株式ナラ株式トヲ残サレテ居ルノナラ宜シイシテ株式ニ變ルトカ、或ハ株式ヲ賣買シテ營業ヲ致シテ居リマス、其ノ營業ガ又成績ガ舉ル、斯ウ云フ風ニナッテ行キマスルト殆ド捉ヘ所ガナイ、斯ウ云フコトニナルノデアリマシテ、ドウシテモ相續開始ノ時ノ時價ニ依ルト云フヨリ外ハナカラウカト存ジテ居リマス

ノヤウニ取扱ハレルノデアリマセウカ、
○政府委員(大矢半次郎君) 此ノ同族會社

ノ定義ハ法人稅法ノ第十七條ノ末項ニアル
ノデアリマシテ、之ニ該當スル場合ニハ有限
會社ト雖モ同族會社ニナリマスガ、所謂有
限會社デモ必ズシモ之ニ該當スルモノバカ
リトモ申サレナイカト思ヒマス、要スルニ

此ノ十七條ノ末項ニ該當スル場合ニ於テ、
同族會社ナリ之ニ該當シナケレバ同族會社
ナラヌト申上ゲルヨリ外ハナイカト思ヒマ
ス

○橋本辰二郎君 私ハ今ノ御示ニナリマシ
タ法文ヲ見テ居リマセヌガ、若シモ茲ニ血
族關係ノ無イ極ク親シイ友人ガマア四五人
集リマシテ一種ノ組合ミタイナ、詰リ是ハ
有限會社ト云フノモ組合モ同ジデアリマス
ガ、サウ云フモノヲ組織シタ場合ニ於キマ
シテハ矢張リ血族關係ガ無イ以上ハ、是ハ
一般ノ法人ト御認ニナリマセウカ

○政府委員(大矢半次郎君) 此ノ法人稅法
ノ第十七條ノ末項ハ「本法ニ於テ同族會社
ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親
族、使用人、命令ヲ以テ定ムル出資關係ア
ル法人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ
出資金額ノ合計ガ其ノ法人ノ株式金額又ハ
出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ
謂フ」ト、斯ウ云フ風ニアルノデアリマシテ、
親族、使用人等ノ關係ガアル場合デ、單ニ
友人關係ノミノ場合ニハ之ニ當嵌ラヌト存
ジテ居リマス

○橋本辰二郎君 其ノ點能ク了承致シマシ
タ、次ニ私ハ外貨債ノ特別稅ニ付キマシテ
御尋ネ致シタイト思ヒマス、外貨債ノ所有
者ハ割合ニ好イ利率ノ配當ヲ受ケマスルノ
デ、之ニ相當ノ稅ヲ課スルト云フノハ是ハ
云フノガ此ノ案ノ適否ヲ定マル所カト存ズ
ルノデアリマシテ、今日ト致シマシテハ相
當高率ノモノデゴザイマス、言フ迄モナク
は先ガ借替ヘテシマフ、或ハ普通ノ事業
會社デ發行シテ居ル社債モアリマスガ、低

已ムヲ得ヌハト云フヨリモ寧ロ當然デハナ
カラウカト思ヒマスルケレドモ、今度又此
ノ外貨債ノ範圍ヲ擴メラレマシテ、日本ニ
居住スル者ガ外國ニ保管ラシテ居ル所ノ債

券ニ迄及サレタト云フコトニナッテ居リマス
ガ、此ノ外貨債ノ利子ナルモノハ、「アメリ
カ」ナリ「イギリス」ナリ、若シクハ「フラン
ス」ナリデ拂ハレルモノデアリマシテ、其ノ
利子ヲ支拂フ所ノ土地ニ於キマシテ之ニ相
當ノ課稅ヲスルト云フコトハ、是ハ首肯セ
ラレルト思フノデアリマス、現ニ日本デモ
此ノ法律ニモアリマスルヤウニ、内地ニ居
住セザル者ニ對スル公債ノ利子ナンゾニ對
シマシテノ稅ハ内地人ヨリモ重ク決メテア
リマスル、デ是ハ外國ニ於キマシテ是等ニ
課稅スルト云フコトハ尤モト思ヒマスルガ、
外國デ利子ヲ支拂フモノデ、サウシテソレ
ニ對シテ日本ニ於テ稅ヲ掛ケラレルト云フ
コト、其ノコトハ私ハ宜イト思ヒマスルガ、
其ノ法理上ノ根據ニ付キマシテ一ツ御説明
ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(大矢半次郎君) 是ハ法理上ハ
斯ウ云フ風ニ定メラレバ課稅シテ少シモ
差支ナイ、法理上斯ウ云フモノニハ課稅ス
ベカラザルモノデアルト云フ議論ハ成リ立
タナイト思フノデアリマシテ、實際外國ニ
於テ若シモ御示シノヤウナ課稅ヲ受ケテ居
ルトスレバ、サウ云フ場合ニ更ニ此ノ度ノ
改正案ノヤウナ課稅ヲスルノハ、ソレ等ノ
所有者ニ對スル負擔トシテ適當カドウカト
云フノガ此ノ案ノ適否ヲ定マル所カト存ズ
ルノデアリマシテ、今日ト致シマシテハ相
當高率ノモノデゴザイマス、言フ迄モナク
は先ガ借替ヘテシマフ、或ハ普通ノ事業
會社デ發行シテ居ル社債モアリマスガ、低

利ノモノニ借替ヘテシマヘバ自然斯ウ云フ

モノハ無クナッテ居ルト云フヤウナモノデ

レヲ承リタイト思ヒマス

○政府委員(大矢半次郎君) 此ノ問題ニ付

モノナラバ今回ノ改正案ニ依ル負擔ハ御願

ヒ出來ルノデハナカラウカト、斯ウ云フ風

ニ考ヘテ居リマス

其ノ外ノ場合ニモ同様ノコトガ多ク出テ來
上ニ於テ根據ガアルノニハアラズシテ、マ

ア便宜的ニ斯ウ云フ風ニオヤリニナッタト

私ハ諒承致シマス、次ニ私ハ船體ノ保險金

ノ問題ニ付キマシテ御尋ネ致シタイト思ヒ

マス、此ノ船體ノ保險金デゴザイマスネ、

シマシテノ稅ハ内地人ヨリモ重ク決メテア

リマスル、デ是ハ外國ニ於キマシテ是等ニ

課稅スルト云フコトハ尤モト思ヒマスルガ、

シテハ矢張リ血族關係ガ無イ以上ハ、是ハ

一般ノ法人ト御認ニナリマセウカ

スガ、當業者ニ於キマシテモ是等ニ對シマ

シテ適當ノ計算方法ニ依リテ餘り稅ノ負擔

船ガ沈没等ヲ致シマシタ時分ニ所謂「ト一

タル・ロスト」云フ規定ニ依リマシテ、保險

船ガ沈沒等ヲ致シマシタ時分ニ所謂「ト一

タル・ロスト」云フ規定ニ依リマシテ、保險

船ノ保險會社カラ受取リマス場合ニ、其ノ

保険金額ト帳簿上ノ價格デザイマスネ、

「ブック・ヴァリュー」、是トノ差額ガ少カラズ

アル場合カアルノデアリマス、殊ニ今日ノ

如ク船賃ガ非常ニ暴騰致シマスル折柄ニ於

キマシテハ、其ノ「ブック・ヴァリュー」ト保

險金額トノ差額ガ特ニ著シキモノカアルノ

「ブック・ヴァリュー」トノ間ノ差額ヲ以チマ

シテ、此ノ保険金額ヲ詰リズット

算定セラレマシテ、之ニ課稅ヲ受ケルト云

フコトニナリマスルト、資金ノ少イ會社ニ

於キマシテハ、其ノ保険金額ノ大部分ガ課

稅ニ徵收セラレマシテ、爲ニ船ヲ失ヒマシ

テ、其ノ代リノ代船ヲ建造スルコトハ勿論、

其ノ失タ船ニ匹敵スル所ノ船舶ヲ購入ス

ルコトモ出來ナイト云フヤウナ氣ノ毒ナヤ

ウナ境遇ニ陥ルノデアリマスガ、此ノコト

ハ多年ノ間船舶業者ヨリ大藏省ニモ陳情シ

テ居ルヤウニ承シテ居リマスノデ、此ノ海運業者ト

シテ此ノ大部分ヲ稅金ニ徵收セラレルト云
云フモノニ對シテハ特別ノ一つ保護ニ付テ
御考ヲ願ヒタイト思ヒマス、ソレデ今申シ
マシタヤウナ此ノ船體保險料ヲ獲得致シマ
シタ此ノ大部分ヲ稅金ニ徵收セラレルト云
ナイト云フコトニナリマスルト云フト、前述ノ船主

ナ感ジヲ懷クノデアリマス、日本ニ於キマシテ千「トン」以上ノ船舶ノ所有者ハ個人ト法人ヲ合セマシテ約二百四十バカリアリマス、其ノ中ニ一艘船主ト云フモノガ百人バカリアリマス、此ノ百人ノ者ハ結局此ノ保険問題ニ付キマシテ重イ課税ヲ受ケマスト云フト、是ハ廢業ヲシナケレバナラナイヤウナ運命ノ下ニアルノデアリマシテ、海運國策ノ爲ニ努力ヲ拂ハレテ居リマスル政府トセラレマシテハ、最モ是ハ留意ズベキコトト思ヒマスルノデ、ドウカ大藏省ニ於キマシテモ能ク一ツ御取調ニナリ御協議ニナリ、成ベク海運業者ノ希望ヲ御容レニナルヤウニ、一ツ特別ノ御努力ヲ御願ヒ致シタイトと思ヒマス、次ニ今回税法ガ變リマシテ、五千圓以上ノ收入ノアル者ハ綜合稅ヲ受ケルゴトニナリマシタガ、株式ノ配當ヲ受ケマシテモ、五千圓以内ノ者ハ綜合課稅ヲ受ケマセヌ、唯源泉課稅ダケニ留ルノデアリマスガ、今日ノ過渡期ニ於キマシテ考ヘテ見マスルト、四日一日カラ此ノ新法ガ實施セラル、ト云フコトニ付テ考ヘテ見マスルト云フト、此ノ四日一日以前ニ其ノ配當金ヲ受取ヅタ者ハ源泉課稅ト云フモノヲ全ク免レルヤウナ結果ニナリマシテ、茲ニ於キマシテ多少負擔ノ不公平ト云フコトヲ招キハシナイカト思ヒマスルガ、私ノ考達ヒデアリマセウカ、御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

四月以降株式ノ配當ヲ受クル場合ニ、源泉
デ課税ヲ受ケルト云フコトニナリマシテ、
納メル側カラ云ヒマスト云フト、一年分全
然稅ヲ負擔シナイデシマウト云フヤウナコ
トデハナク、年度ヲ越シテズット納メルコト
ニナル、斯ウ云フコトニナルノデアリマシ
テ、之ヲ理論上一年ナラ一年脱漏シタノデ
アルカラ、此ノ分ヲ取ラウト致シマスト、
午前中法人デ御話ガアリマシタヤウナ、(過)

○子爵大河内輝耕君 其ノ外ニ獨立ノ營業
稅のモノハゴザイマセヌデスカ
○政府委員(大矢半次郎君) ゴザイマセヌ
○子爵大河内輝耕君 ソレデハ地租ト營業
稅ト家屋稅ニ付キマシテ 改正案ニ依リマ
テ、ドノ位減ツテドノ位……減ツタノモ殖工
タノモアリマセウガ、ソレハ額ハドノ位ニ
ナリマスカ、其ノ三ツニ付テ同ヒタイ

マス、是以上輕減シヨウツルト、結局法
人稅ノ稅率ヲ輕減スル、斯ウ云フコトニ歸
著スルノデハナカラウカト存ジマス
○子爵大河内輝耕君 ソコガ問題ナノデ、
法人稅ノ稅率ヲ保留所得ニ付テ輕減シタ
ラドウデスカ、サウシテソレガ又増資カ何
カノ形デ株主ノ手ニ歸スル場合ニハ、ソレ
ハ相當善處シテ宜イト思フ、其ノコトヲ伺
フノデス

[View all posts by admin](#) | [View all posts in category](#)

ラレマシテハ、最モ是ハ留意スベキコトト
思ヒマスルノデ、ドウカ大藏省ニ於キマシ
テモ能ク一ツ御取調ニナリ御協議ニナリ、
成ベク海運業者ノ希望ヲ御容レニナルヤウ
ニ、一ツ特別ノ御努力ヲ御願ヒ致シタイト
思ヒマス次ニ今回税法ガ變リマシテ、五
千圓以上ノ收入ノアル者ハ綜合税ヲ受ケル

渡期ニ於テ全ク重複ノ課稅ヲ受ケルノデハ
ナイカト云フ問題ニナリ、是コソ一年ニ二
年分ノ稅金ヲ納メルト云フコトニ全クナル
ノデゴザイマスカラシテ、サウ云フ點ヲ考
慮致シマシテ、本年ノ四月以降ノ分ニ付テ
ノミ分類所得稅ヲ課スル、斯ウ云フ風ニ致
シタ次第デアリマス

○政府委員(大矢半次郎君) チヨット取調
ベマシテ、後程御答へ致シタイト思ヒマス
○子爵大河内輝耕君 ソレデハ次ノ質問ニ
移リマスガ、此ノ間留保所得ヲ、普通ノヨ
リモ法人ノ留保所得ヲ幾ラカ優遇シタ方ガ
宜カラウト申シタノデスガ、大藏大臣ハ、
サウ云フ必要ハナイト云フヤウナ結論ダケ

○政府委員(大矢半次郎君) ソレハ矢張リ
昨日デシタカ、三浦委員カラモ御尋ガアッタ
ノデアリマスガ、要スルニ法人ヲ獨立ノ納
税主體ト見テ、サウシテ一事業年度ニドレ
位ノ所得ガアルカト云フコトヲ見テ課税ス
ルト云フコトニナリマスト、留保所得ダカ
ラ特ニ輕減スル、社外ニ配當トンシテ出スカ

コトニナリマシタが株式ノ配當ヲ受ケマシテモ、五千圓以内ノ者ハ綜合課稅ヲ受ケマセヌ、唯源泉課稅ダケニ留ルノデアリマスガ、今日ノ過渡期ニ於キマシテ考ヘテ見マスルト、四日一日カラ此ノ新法ガ實施

○橋本辰二郎君 稲少シク頭ノ惡い性がモ
知レマセヌガ、了解シ兼ネマスガ、ソレハ
サウ重要ナ問題デアリマセヌノデ、其ノ程
度ニ止メテ置キマス、私ハ是デ一應質問ハ
打切ッテ置キマス

ハ御答辯テアシタノテスカ事務當局トシテ
ハドテセウカ、私ノ言フノハ、斯ウ云フ事
業ノ基礎ヲ固クスルヤウナ留保所得ハ之ヲ
獎勵スル、サウシテ他日増資カ何カデ、直
接株主ガ自由ニ處分シ得ルヤウナ財産ニシ
テナマフ場合ニ、又立合立表一、二今

ラシテ、其ノ分八餘計課税スルト云フ考慮
ハ、必要ガナインデハナカラウカト云フ風
ニ考ヘテ居リマス、要スルニ法人ニ對スル
課稅ハ、此ノ程度ノ負擔デ果シテ其ノ國ノ
經濟界ノ狀況カラ見テ、法人企業ガヤツテ行

セラル、ト云フコトニ付テ考ヘテ見マスルト云フト、此ノ四日一日以前ニ其ノ配當金ヲ受取ツタ者ハ源泉課税ト云フモノヲ全ク免レルヤウナ結果ニナリマシテ、茲ニ於キマシテ多少負擔ノ不公平ト云フコトヲ招キハシナイカト思ヒマスルガ、私ノ考達ヒデアリマセウカ、御説明ヲ願ヒタイト思ヒマ

○子爵大河内謹執事
利ハ事務局ニ御
ネ致シマス、事務的ノコトバカリデゴザイ
マスカラ、極ク簡単ニ御答ヘ下サレバソレ
デ結構デス、唯順序ガ色々ナリマスカラ
ドウゾ惡シカラズ……、地方稅ノ獨立稅ト
シテノ營業稅ハ、收入ハドノ位ニナッテ居リ
マスカ稅率ハドノ位デスカ、改正案デ……

テシマウ場合ニハ
又五分五乗ナリ
十分ナリ
十乘ナリシテ課稅シテ宜イト思フ、サウ云
フコドハ事務當局トシテ考ヘテ居ラレナイ
カ、幾ラカ留保所得ニ付テ、ハ優遇シテ置ク
必要ハナイデセウカ

○政府委員(大矢半次郎君) 結局配當致シ
マスト云フト、個人ニ於テ配當所得トシテ

ケルカドウカ、發展シテ行ケルカドウカ、
ソコニ限界點ガアリ、大河内子爵ノ仰セニ
ナル留保所得ヲ輕減スル必要ガアリト致シ
マスレバ、モウ少シ法人ノ課稅ヲ輕減シナ
ケレバ、其ノ國ニ於テ法人ハ發展シテ行ケ
ナイト云フ場合ニ考ヘラルベキデハナカラ
ウカ、近年稅ノ負擔モ相當重クナツテ居リマ

○政府委員(大矢半次郎君) 其ノ點ハ、理
論上ハ仰セニナルヤウナコトニナルノデア
リマスルガ、唯納稅者ノ實際ノ負擔カラ致
シマスルト云フト、昨年第三種所得稅ニ於
テ決定ヲ致シタ稅金ハ、第三期ハ本年ノ一
月第四期ハ本年ノ三月納メル、サウシテ

○政府委員(大矢半次郎君) 税率ハ百分ノ六デゴザイマスルガ、其ノ中四分ノ一ヲ國稅トシテ徵收シ、四分ノ一ヲ府縣稅トシテ、國稅ノ附加稅トシテ徵收スル、四分ノ二ヲ市町村稅、國稅ノ附加稅タル市町村稅ヲ徵收スルト云フコトニナシテ居リマス

課税ヲスル、斯ウ云フコトニナツテ居リマスカラシテ、會社ニ留保スレバ個人ノ方デ課税ヲ受ケル分ダケハ課税無シデ行ケル、其ノ意味ニ於テ會社企業カラ生ズル利益ニ對スル課税ヲ、法人個人ヲ通ジテ見マストト云フト、會社ニ留保シタノガ相當輕減ニナツテ居ルト申サル、ノゾヤナカラウカト存ジ

スケレドモ、法人ト云フモノガ依然トシテ
隆盛ニナシテ、相當利益率モ向上シテ行クト
云フ状況デアリマスカラ、此ノ際特ニ法人
ノ留保所得ヲ輕減スル必要ハナイデハナカ
ラウカト考ヘテ居リマス

ヲ獎勵セヨト云フ意味デス、誤解ガアルト
イケマセヌカラ……經濟界ノ變動ニ依ツテ
今日良イ會社モ直ぐ惡クナル、ソレニ付テ
ハ留保ヲ澤山サシテ置クコトガ必要ダト思
フノデス、其ノ意味ニ於テ留保所得ヲ輕ク
シテ置イテモ宜カラウトスウ云フノデス、
留保ヲ獎勵スル意味ナンデス、矢張リ御答
ト同ジナラバ宜シウゴザイマス

○政府委員(大矢半次郎君) ソレハ「イタ
リ一」等ニ於キマシテハ日本ノヤウニ國家
總動員法ニ依ル配當制限ト云フノヲ致サナ
イ、一時ハ致シテ居リマシタケレドモ、實
效ガ少イト云フノデ此ノ制限ヲ撤廢シマシ
テ、サウシテ其ノ代リ配當ヲ多クスレバ、
高率配當ノモノニ對シテハ隨分高イ課稅ヲ
致シテ居ル、日本ノ配當利子特別稅ノヤウ
ナモノハ隨分高イ課稅ヲ致シテ居ルノニア
リマスガ、斯ウ云フ行キ方モ一つノ行キ
方デ、斯クノ如ク致シマスレバ大河内サン
ノ仰セニナルヤウナ趣旨ガ或程度迄實現出
來ルカト思フノデアリマスケレドモ、日本
ニ於キマシテハ國家總動員法デ相當配當ノ
制限モ致シテ居ルト云フノガ一つゴザイマ
ス、ソレカラ高率配當ニ對シマシテハ配當
利子特別稅ガアルノデアリマシテ、或程度
大河内サンノ御述ニナック御趣旨ノ點ハ現
レテ居ルカト存ジマス

○子爵大河内輝耕君 是ハ此ノ位ニシテ置
キマセウ、ソレデ次ニ相續稅ノ物納ノ話ガ度
度出マシタガ、之ヲ研究スルト云フコトナ
ンデスガ、具體的ニドンナ方法デ研究セラ
レルノデスカ、委員會ヲ造ラレルトスレバ、
其ノ委員會ノ組織ハドウナルカ、ソレカラ
何時迄ニ此ノ研究ヲシテ議會ニ出サレルカ
サウ云フヤウナ點ハドウナンデスカ

○政府委員(大矢半次郎君) 此ノ間大臣ノ
廳内部ニ委員會ノ如キモノヲ設ケテ、直グ
ソレガ研究ニ著手シ、成ルベク早イ機會ニ
之ガ實現スルヤウニ致シタイ、準備ハ直グ
ニ著手スルト、斯ウ云フ風ナ趣旨ヲ述ベラ
レタノデアリマシテ、今具體的ニ此ノ委員
會ノ如キヲドウ云フ組織デ致スカ、ソレカ
ラ何時迄ニ此ノ調査ヲ終ヘテ、何時議會ニ
提案致スカト云フコトハ、チヨット今御答ヘ
致シ兼ネマス

○子爵大河内輝耕君 此處ニ免稅會社ノ名
前ヲスッカリ戴キマシタカラ 大變ヨク分リ
マシテ、御骨折トスッタノデ此ノ點ハ感謝致
シマスガ、稅額ノ御調ハドウデセウカ、ア
リマスマイカ、是ハスッカリデドノ位ニナリ
マセウカ、全體デ宜シウゴザイマスガ、御
調ハアリマスマイカ

○政府委員(大矢半次郎君) 今實ハ手許ニ
持シテ居リマセス

○子爵大河内輝耕君 ソレデハ是ハ相當ナ
時ニ御答ヲ願ヒマス、次ニ配當利子ニ付テ
四割控除ニナッテ、十分ノ四ヲ控除スルト
アリマスガ、此ノ十分ノ四ヲ控除スルト
カラ來タノデスカ

○政府委員(大矢半次郎君) 今實ハ手許ニ
持シテ居リマセス

○子爵大河内輝耕君 其ノ場合株式配當ハ
ドレ位、株式ノ利廻リハドノ位ニ見テ居リ
マスカ

○子爵大河内輝耕君 次ニ満洲竜ニ支那ノ
ハ大體五分五厘程度ニ行シテ居リマス

○政府委員(大矢半次郎君) 株式ノ利廻リ
稅法ニ付テ伺ヒタイノデスガ、是ハ色々
ナイグラウト思ヒマスガ、實情ハドウデセ
ウカ、又サウ云フモノガアリトスレバ、何
トカ相當ノ機會ニ善處スル必要ガアラウト
思フノデスガ、其ノ點ハ如何デアリマセウ
カラ以チマシテ、大體四割程度引イタラ宜
イノデハナカラウカト存ジタ次第デアリマ

シテ、結局中以上ノ所得者ニ付キマシテ稅
引手取ノ額ヲ見マシテ、此ノ程度ヲ以テ適
當ト致シタ次第デゴザイマス

○子爵大河内輝耕君 稅引ノ程度ト云フノ
ハドウ云フコトニナリマスカ、稅引ノ程度
ガ十分ノ四ニ當ルト云フコトデスカ

○政府委員(大矢半次郎君) 相當多額所得
者ニ付キマシテ株式ニ投資シタ場合ト、ソ
レカラ公社債、銀行預金等ニ投資シタ場合
ニ於キマシテ、餘り稅引ノ手取ニ差違ガア
リマスルト云フト、資金ガ不利ノ方カラ有
利ノ方ニ移ツテ行クノデアリマシテ、之ヲ公
社債、銀行預金等ニ付キマシテ全額綜合課
稅致シマスルト云フト、今迄投資シタ資金
ガ株式等、他ノ方面ニ急激ニ流レテ行クト
云フ惧ガアリマスカラシテ、其ノ點ヲ考慮
致シマシテ四割控除致シマシタ、大體四割
控除致シマスト云フト、サウ云フ急激ナ移
動ハ起ラナイモノト存ジタ次第デゴザイマ
ス

○子爵大河内輝耕君 此ノ國稅ノ殊ニ法人
稅、所得稅、相續稅、此ノ各種ニ付テ基礎
控除ヲスルトカ、或ハ家族控除ヲスルト
カ、色々ナコトガアリマスガ、此ノ引キ方
ガズット通覽シテ見マスト、色々區々ニナッ
テ居ルノデスガ、何カ是ハ一定ノ標準ガア
ルノデアリマセウカ、此ノ點ニ付テハ何デ
スカドウ云フ所ニ標準ヲ求メラレタノデス
カ

○子爵大河内輝耕君 此ノ國稅ノ殊ニ法人
稅ニ付キマシテ、基礎控除ヲ設ケマシタノ
ハ、小額所得者ノ負擔緩和ニ資スル趣意デ
ゴザイマス、相續稅等ニ於キマシテハ、此
ノ基礎控除ノ制度ニ依ラズニ免稅點ノ制度
ニ依シテ居ルノデアリマシテ、行キ方ガ違フ
ノデ此ノ度ノ改正ニ當リマシテハ、或ハ相
續稅ニ於キマシテモ基礎控除ト云フヤウオ
コトモ考テモ見タノデアリマスケレドモ、
大分稅率等ニ付キマシテ變動モ起ルノデア
リマスカラシテ、先づ是ハ昭和十二年カニ
臨時增徵法デ改正シタノヲ基礎ニ置イテ、
現在來テ居ル、ソレニ對シテ大體三割程度

ノ増徴ニ當ルト存ジマシテ、從來ノ體系ニ依ッタノデゴザイマス、從ヒマシテ所得稅ト相續稅ニ於テ多少行キ方ガ違ツテ居ルノデハナカラウカト云フ御話ガゴザイマスレバ、其ノ通リデアルト申上ゲル外ナインデアリマス。

○子爵大河内輝耕君 ソレハ今ノ何デスナ、其ノ家族控除ノ割合ハ何

家族控除デスガ、其ノ家族控除ノ割合ハ何デ御決メニナックノデスカ、所得稅ニモドチラニモアルヤウデスガ

○政府委員(大矢半次郎君) 所得稅ノ方ハ大體從來モ家族一人當リ百圓ト致シマシテ、所得金額カラ控除シテ居リマシタカラ、此ノ度ノ改正案ニ於キマシテモ、其ノ範圍ヲ擴張シテ、百五十圓ヲ所得カラ引カウト致シテ居タノデアリマスガ、分類所得稅ニ於キマシテハ、各種所得ノ稅率ガ違フノデアリマシテ、是等數種ノ所得ヲ合セ有スル者ニ付キマシテ、從來ノヤウナ所得金額カラ控除スル方法ニ依リマスレバ、非常ニ面倒ニナリマスノデ、結局百十圓ニ對シマシテ分類所得稅ノ各種所得ノ稅率ノ大體ノ平均ニナツテ居ル百分ノ八ト云フノヲ乘ジテ出

タ金額ヲ稅額カラ引カウトスウシテ居リマスガ、相續稅ニ於キマシテハ、相續財產ノ種類ニ依ッテ稅率ガ違フト云フコトモゴザイマセヌノデ、是ハ一律ニ相續財產價格カラ引カウト致シテ居リマス、其ノ引ク程度ヲ如何ニスレバ宜イカト云フハ、色々見方ガアリマスケレドモ、大體一人當リ千圓程度ト致スノガ、家督相續等ニト云フ風ナ建前ヲ執ツテ居ル上カラ行キマシテモ、先ヅ此ノ程度ノ金額ハ適當デハナカラウカトスウ考ヘタ次第デアリマス

○子爵大河内輝耕君 私、其ノ二十五條ノ今御引キニナック百分ノ八ノ十二圓ト云フノガ能ク分ラナイノデスガ、此ノ十二圓ト云フノハ何處カラ來タノデスカ、從來一人當リ所得金額カラ百圓ヲ引イテ居タノヲ、五割増シデ百五十圓ニシヨウ致シタノデアリマスケレドモ、不動產所得、事業所得、勤勞所得トソレハ、稅率ガ違ヒマスルノデ、一人デ是等ノ所得ヲ併セ有スル場合ニ於キマシテハ、ドノ所得カラ百五十圓ヲ引クカト云フノデ、稅ノ輕減ノ程度ガ違ツテ來ルノデアリマシテ、計算上非常ニ複雜ニナツテ來ル、此ノ煩瑣ナ手數ヲ避ケル爲ニ不動產所得ノ百分ノ十、事業所得ノ中ノ營業所得ガ百分ノ八・五、其ノ他ノ事業所得ガ百分ノ七・五、勤勞所得ガ百分ノ六・六、大體此ノ平均ガ百分ノ八・八程度ニナツテ居リマスカラ、百五十圓ニ對シテ百分ノ八ヲ乘ジテ得タ金額十二圓ヲ稅額カラ引ク、斯ウ云フ風ニシタ方ガ計算モ極メテ簡単デ負擔輕減ノ程度モ總テノ所得者ニ對シテ均一ニ行クト斯ウ云フ趣旨カラ致シタ次第デアリマス

○子爵大河内輝耕君 ソレハ分リマシタ、ソレカラ次ニ私ハ素人デ甚ダドウモ能ク分ラナイノデスガ、此ノ法人稅ト云フノハ、法人ニハ色々ナ法人ガアルシ、是ハ十把一東ゲニシテヤツテ居ルノデスガ、是ハ差支ナイノデスカ、法人ト云フノハ色々ノ法人ガ含マレテ居ルノデスカ

○政府委員(大矢半次郎君) 是ハ法人稅ノ課稅對象ニナルノハ營利法人以外ノモノニ付キマシテハ、產業組合、商業組合等、特別ノ法人ニ對シテハ今度特別法人稅ヲ課稅スルヤウニ致シマシタガ、是等ハ出資團體

○子爵大河内輝耕君 私、其ノ二十五條ノ今御引キニナック百分ノ八ノ十二圓ト云フノガ能ク分ラナイノデスカ、此ノ十二圓ト云フノハ何處カラ來タノデスカ、從來一人當リ所得金額カラ百圓ヲ引イテ居タノヲ、五割増シデ百五十圓ニシヨウ致シタノデアリマスケレドモ、不動產所得、事業所得、勤勞所得トソレハ、稅率ガ違ヒマスルノデ、一人デ是等ノ所得ヲ併セ有スル場合ニ於キマシテハ、ドノ所得カラ百五十圓ヲ引クカト云フノデ、稅ノ輕減ノ程度ガ違ツテ來ルノデアリマシテ、計算上非常ニ複雜ニナツテ來ル、此ノ煩瑣ナ手數ヲ避ケル爲ニ不動產所得ノ百分ノ十、事業所得ノ中ノ營業所得ガ百分ノ八・五、其ノ他ノ事業所得ガ百分ノ七・五、勤勞所得ガ百分ノ六・六、大體此ノ平均ガ百分ノ八・八程度ニナツテ居リマスカラ、百五十圓ニ對シテ百分ノ八ヲ乘ジテ得タ金額十二圓ヲ稅額カラ引ク、斯ウ云フ風ニシタ方ガ計算モ極メテ簡単デ負擔輕減ノ程度モ總テノ所得者ニ對シテ均一ニ行クト斯ウ云フ趣旨カラ致シタ次第デアリマス

○子爵大河内輝耕君 私ノ申上ゲヨウガ惡カツタノデスガ、營利法人ニハ色々ノモノガアルト思フ、合名會社モアリ、合資會社モアリ、橋本サンガ御引キニナツタ企業會社ガアルシ、株式會社モアル、ソレガ同ジタ云フノハ何ダカ腑ニ落チナイ、如何デスカ

○子爵大河内輝耕君 私ノ申上ゲヨウガ惡カツタノデスガ、營利法人ニハ色々ノモノガアルト思フ、合名會社モ付テハ餘程個人的ノ分子ガ入ツテ居ルノデ、全然同ジト云フコトモ何カ理論ガ一貫シナイヤウニ思フ、又租稅政策カラ云ツテモ不權衡ノヤウニ思ハレルノデスガ、前ノヤウナ稅制ナラバ宜シノデスガ、法人稅トシテ立派ニ出来タ以上ハ、サウ云フ點ハ考ヘテ見ル必要ハナイデセウカ、金然ソンナコトハ考ヘテ見ル必要ハナイ、全然無差別平等デ宜イト云フナラバ、モウ少シ其ノ理由ヲ承リタイ

○政府委員(大矢半次郎君) 一應御尤モトハ存ゼラレマスケレドモ、實際ノ各法人ニ就テ見マスト、株式會社デモ極メテ少數デ實體ハ普通ノ小サイ合名、合資ト同ジヤウナ條件ノモノモアリマス、又合名、合資ト雖モ、日本有數ノ財閥ノ經營シテ居ツテ、普通ノ株式會社以上ノモノモアル、斯ウ云フ狀況デアリマスノデ、株式會社ト合資、合名兩者ヲ區分シテ課稅スルコトハ困難モ、ト云フノデアリマシテ、其ノ後一律ニ致シテ十數年デゴザイマスカ、二十數年、モ、ドウシテモソレデハ負擔ノ均衡ヲ得ナ

○子爵大河内輝耕君 合名、合資、株式、總テ一律ニ致シテ居ルノデアリマシテ、寧ロ其ノ方ガ實情ニ適スルノデハナイカト思フノデアリマス、但シ、合名、合資ニ於キマシテハ普通ノ株式會社ト違ヒマシテ、同族デ經營シテ居テ相應シテ、合名、合資ニ於キマシテハ普通ノ株式會社ト違ヒマシテ、此ノ點ハ臨時利益金ヲ擧ゲテモ配當シナイト云フヤウスルノデハナイカト思フノデアリマス、但シ、合名、合資ニ於キマシテハ普通ノ株式會社ト違ヒマシテ、小法人ニ對シテハ特要モアルカト存ジマシテ、此ノ點ハ臨時利益等ニ於キマシテ、小法人ニ對シテハ特資タルト株式タルト問ハズ、一樣ニ小法人ニ對シテハ課稅ヲ輕減シテ行クト云フコトデアリマシテ、寧ロ斯ウ云フ行キ方ノ方ノ

ガ事實ニ適合シテ居ルノデハナイカト存ジ
テ居リマス

○子爵大河内輝耕君 同族會社ニ付テハ安
宅君カラ大變良イ御質問ガアツタノデスガ、
改正案ヲ基トシテ、他ノ法人、竝ニ普通ノ
個人ト課税ノ仕方ガ違フ所ハドウ云フ所デ
スカ、

○政府委員(大矢半次郎君) 同族會社ニ對
シマシテハ普通ノ事業會社ト同ジヤウナ利
益配當ヲ致シテ居ル場合ニ於キマシテハ、
大體課税ハ致サナイノデゴザイマスガ、

併シ同族會社ノ中ニ於キマシテモ財產保
全ヲ目的トシテ居ルモノニ付キマシテ
ハ、特ニ此ノ加算規定ノ適用ヲ勵行シテ
居ルノデアリマシテ、ソレハ從來其ノ期
ノ所得ノ三割以上ヲ留保シタ場合ニハ、其
ノ三割ヲ超過シタ額ニ對シマシテ一定ノ率
デ以テ禪キ出シタ稅額ヲ特ニ加算スル、斯
ウ云フ風ニ致シテ居ルノデアリマスガ、此
ノ度ハ此ノ同族會社ノ中、事業ヲ主トシテ
居ル同族會社ニ付キマシテハ此ノ留保ノ限
界點ヲ引上げタノデアリマシテ、普通ノ保
全會社ニ於キマシテハ三割ヲ超エル場合合
アリマスガ事業ヲ營ンデ居ル場合ニハ、六
割ヲ超過スル場合、其ノ超過額ニ對シテ所
定ノ稅率デ禪キ出シタ稅額ヲ加算スル、斯
ウ云フコトニ致シマシテ居リマス、サウシ
テ加算稅ノ稅率ハ何ヲ目標トシテ居ルカト
言ヒマスレバ、其ノ超過額ヲ個人ニ配當シ
タ場合ニ、個人ノ稅ノ負擔ハドノ位ニナル
カト云フコトヲ目標ニ致シマシテ、大體ソ
レニ相匹敵スル程度ノ稅負擔ヲ致サセヨウ、
斯ウ云フ趣旨デゴザイマス、要スルニ同族

會社ノ形態ヲ採シテ居ルガ爲ニ、他ノ普通ノ
事業會社、及個人ノ稅ノ負擔ヨリモ負擔ガ
輕クナルト云フ場合ニ之ヲ調整シヨウト云
フノガ其ノ趣旨デゴザイマス

○子爵大河内輝耕君 今ノ留保ノコトハ分
リマシタガ、事業經營ノ方ハ六割ト云フノ
デスガ、是ハ矢張リ他ト同ジヤウニ見ルト
云フ御話デスガ、個人ニ配當シタモノト同
ジヤウニ見ルト云フノデスガ、其ノ稅率ハ
何デスカ、同ジデ、矢張リ六割ト三割ガ違
フダケデアリマスカ

○政府委員(大矢半次郎君) 左様デゴザイ
マス
○子爵大河内輝耕君 是ハ少シ無理ナ御尋
カモ知レマセヌガ、個人ノ所得ノ何デスカ、
綜合所得稅ノ平均稅率ハドノ位ニナッテ居
リマセウカ、例ヘバスッカリ稅額ヲ片方デ
見、片方テ所得額ヲ計算シテ見ルト何割位
ニナッテ居リマスカ

○政府委員(田中豐君) 綜合所得稅ニ於キ
マシテ稅率ノ平均率ハ二四・九位デゴザイマ
ス、約二五・パーセントデゴザイマス、綜
合所得稅ダケノ計算デアリマス
○子爵大河内輝耕君 ソレカラ次ニ他ノ方
ニ飛ンデ恐縮デスガ、酒稅ノ今度米ノ節約
ニ依ル減收、竝ニ其ノ高ハドノ位デセウカ
ノ間ニ於テモ暫ク兩方並行シテ行シテ貰ヒ
タイ、斯ウ云フ希望ガ強イノデゴザイマス、
従ヒマシテ從來物品稅デ課稅シタ分ニ對シ
マシテ今回ノ分ヲ加ヘタ其ノ額ヲ大體庫出課
稅ノ方ニ持ツテ行ク、從來造石稅デ課稅シ
テ居ヅタノヲ、矢張リ今回ノ改正ニ於テモ造
石稅デ課稅スル、大體左様ニ致シテ居リマ
スカ、唯私共カラ見ルト、何ダカ造石稅ト庫
何處カラ出テ居リマスカ

○政府委員(田中豐君) 清酒デ百九十四萬
五千石、其ノ他濁酒、白酒、味淋、燒酎、
サウ云フモノヲ加ヘマシテ二百七萬九千石
デアリマス

○子爵大河内輝耕君 酒稅ノ造石稅ト、ソ
レカラ庫出稅ノ稅額ヲ伺イタイ
○政府委員(大矢半次郎君) 平年度ノコト
ヲ申上ゲマス、平年度ノ酒類造石稅ハ一億
三千八百萬圓程デアリマシテ、庫出稅ハ一
億三千三百萬圓デアリマス

○子爵大河内輝耕君 今ノ主稅局長ノ御答
デ計數ハ分リマシタガ、割合ヲ片方ヲソレ
ダケニシ、一方ヲソレダケニスルト云フヤ
ウニナシタノハドウ云フコトカラ來テ居ル
ノデアリマスカ、考ヘ方ニ依テハ造石稅ヲ
モット殖ヤシテ、庫出稅ヲモット少クシテモ
宜イト言フ人モアリマス、或ハ庫出稅ヲモ
ト多クシテ、造石稅ヲ少クシテモ宜イト云
フ、之モ一つノ說デセウガ、其處ノ「バラ
ンス」ハドウ云フ「レート」デ御取リニナッ
タノデアリマスカ

○政府委員(大矢半次郎君) 大體將來酒類
ニ對スル課稅ハ庫出稅ニ行クベキデハナカ
ラウカト存ジテ居リマス、併シ之ヲ今一舉
合ハナイ點ガアルケレドモ、當分ノ間兩者
造石稅ニシテ貰フノモ困ル、多少理論ニハ
併用シタラ……斯ウ云フコトデゴザイマシ
テ、政府ニ於キシテモ今直チニ之ヲ庫出課
稅ニ全部ヲ持ツテ行カナケレバナラヌト
セラレテハ困ルガ、併シサレバト云ツテ全部
造石稅ニシテ貰フノモ困ル、多少理論ニハ
併用シタラ……斯ウ云フコトデゴザイマシ
テ、政府ニ於キシテモ今直チニ之ヲ庫出課
稅ニ全部ヲ持ツテ行カナケレバナラヌト
云フ理由モゴザイマセヌノデ、大體業者ノ
意嚮ニ副ヒマシテ、兩者併用ニ致シマシタ
次第デアリマスガ、將來ハ適當な時ニ庫出
課稅ノ方ニ全部向ケテ行クヤウニシナケレ
バナラヌト存ジマス

○子爵大河内輝耕君 又前ヘ戻ツテ何デス
ガ、看做所得ト云ヒマスカ、アレハ五分五
剩シテ居リマスガ、五分五剩ト云フコトハ

○政府委員(田中豐君) 清酒ニ於キマシテ
マスカ、ソレニ依ヅテ……
○子爵大河内輝耕君 標準ハ分リマシテ
スカ、清酒ダケデゴザイマスカ……
百九十四萬五千石デアリマス
○子爵大河内輝耕君 ソレダケデゴザイマ
スカ、清酒ダケデゴザイマスカ……

○政府委員(大矢半次郎君) 是ハ會社が解散シテ殘餘財産ノ分配ヲスル場合ニ、拂込金額ヲ超過シタ金額ヲ配當ト看做ス、或ハ會社合併ノ場合ニ於キマシテ、被合併會社ノ株主ガ合併會社カラ受ケル株式金額、或ハ其ノ他ノ金額ガ前ノ株式金額ヲ超過シタ場合ニ配當ト看做シテ課稅スル、斯ウ云フノデアリマス、政府ノ案ニ於キマシテハ是ハ毎年々々入ッテ來ル所得デハナイカラ、他ノ所得ト綜合シテ、普通ノ超過累進稅率デ以て行クノハ酷ニナルカラシテ、他ノ所得ト切り離シテ、サウシテ單獨デ、超過累進稅率ヲ以て行カウ、斯ウ云フノデゴザイマシタガ、衆議院ニ於キマシテハ、是デママダ負擔ノ程度ガ強過ギル、現在山林ニ於キマシテハ他ノ所得ト切離シテ、サウシテ五分五剩ノ方法デ課稅シテ居ルノデアリマスガ、丁度看做配當ト云フモノガ山林所得ノヤウニ十年ニ一遍、二十年ニ一遍入ッテ來ルモノデアルカラシテ、先づ山林所得ト同ジヤウナ計算ノ方法ガ適當デハナカラウカト云フヤウナコトデ斯ウ云フ修正ヲシタモノト存ジマス

カ、三十年ニ一一遍入ッテ來ルモノト見タ方
ガ適當デハナカラウカト思ヒマスガ、併シ
是モ山林所得ノ所得金額ノ多イ少ナイニ依
リマシテ、負擔輕減ノ程度モ亦違ッテ來ル
ノデアリマシテ、要スルニ何年ニ一一遍入ッテ
來ルカト云フノヲ計算シテ五分五乘ノ方法ニ
依ツタトハ申サレナイノデアリマス、一ツノ
腰ダメダト思フノデアリマス、從ヒマシテ
今度ノ衆議院ノ修正モ亦或程度輕減シナケ
レバナラヌガ、丁度山林所得ニサウ云フ制
度ガアルカラ、大體アレト似タモノダカラ、
アレノヤウニヤツタラ宜カラウト云フ斯ウ
云フ風ニ考ヘテ出來タ修正カト存ジマス
○予爵大河内煙耕君 ソレハ分リマシタ、
ソレカラ昨日は大臣ニ伺ツンデスガ、所
得稅法ノ第百六條ニ百分ノ十五ト云フノガ
アリマスガ、百分ノ十五ト云フノハ何處カ
ラ來タノデスカ

多額所得者ノ負擔均衡上適當デナイ、斯ウ
云フ點モアリマスノデ、兩者見比ベマシテ
百分ノ十五ト致シタノデアリマスガ、其ノ
結果ト致シマシテ、從來社債銀行預金等ガ、
源泉ニ於テ百分ノ十二ノ税率デ課税致サレ
テ居ツタモノガ、今回ハ百分ノ二十五ニナル
ノデアリマス、一倍ヲチョット越ヘルト云フ
コトニナリマス、ソレカラ國債ニ付キマシ
テハ、從來百分ノ六ノ課税ヲ受ケテ居リマ
シタノガ百分ノ十九ニナリマシテ、三倍ヲ
超過スルト云フ譯デアリマシテ、是デモ相
當負擔ガ重クナルト云フノデアリマス、要
スルニ四割控除シテモ尙且負擔ノ急變スル
方面ニ對シテ、或程度緩和ノ途ヲ採ラナケ
レバ、事變下ノ金融市場ニ惡影響ガ起ルノ
デハナイカ、其ノ點モ亦餘リ重視スルト、
多額所得者ノ負擔ガ輕クナッテ、他トノ均衡
ヲ失スルト云フノデ、色々檢討ヲシタ結果
百分ノ十五ノ税率ガ適當デハナカラウカト
斯ウ考ヘタ次第デゴザイマス

○子爵大河内輝耕君 大體分リマシタ、ソレカラ地方税モ矢張リコツチニ大分影響ガアルノデスガ、地方税ノ分與ハ擔稅力ト割増人口ト云フコトニナツテ居ル、斯ウ云フコトニ承ツテ居リマスガ、擔稅力ノ方ハ非常ニムヅカシイノデ、分リ易ク一ツ御説明願ヒタイノデス

○政府委員(大矢半次郎君) 擔稅力ト云フモノハ、例ヘバ地方税ニ於キマシテハ地租、家屋税、營業税等ノ物稅ヲ主ト致スノデゴザイマス、從ヒマシテ各地方團體ノ財政力ヲ見ル場合ニハ課稅力ヲ見ル、其ノ課稅力ハ主トシテ此ノ三ツノ物稅ニ依ツテ見ルト云フ風ニ致シテ居ルノデアリマス

○子爵大河内輝耕君 私ノ同ツタノハ其ノ計算ノ仕方、ナンデ、平均ノ納稅額カラ其處ノ縣ノ擔稅力ヲ引イテ、サウンテ其ノ不足ガ出テ來タナラバ、ソレニ按分スルカ云フコトガ書イテアルノデスガ、其ノ意味ヲ一つ具體的ニ言ツテ戴キタイノデス

○委員長(伯爵林博太郎君) 大河内君ニ御願ヒシマスガ、當局ノ希望トシテハ、内務省ノ政府委員ガ來タ時ニ地方税ノコトヲ聞イテ戴キタイト云フコトデス

○子爵大河内輝耕君 ソレデハ御願ヒシテ置キマスガ、モウ一ツ内務省ノ政府委員ニ伺ヒタヨコトガアリマスカラ、其ノ時ニソレデハ委員長ニ御願シテ置キマスカラ、相當ノ機會ニドウゾ御願ヒ致シマス……其ノ次ニ伺ヒマスガ、昨日相續稅ノコトニ付キマシテ、家產制度ヲ認メタラドラカト云フコトヲ私ハ申上ゲタノデス、大臣トシテ

ハ餘りサウ云フ御研究モナカッタヤウデスガ、大藏省トシテハ事務當局トシテ、何カソンナコトヲ御考ニナツタコトデモアルノデセウカ、モウ一遍繰返シマスガ、詰リ相當ノ資産ダケハ是ハ家ニ屬スルモノト認ヌテ、相續稅ヲ課スルモノカラ除外シタラドウカト云フコトナンデスガ、コンナコトヲ御考ヘニナツタコトガアルデセウカ

○政府委員(大矢半次郎君) 人一代ニハ大

分資產ノ變動ト云フモノガアルノデアリマシテ、從ツテ其ノ中ニ一體其ノ家產トシテドレダケガ必要デアルカト云フコトヲ總テノ人ニ對シテ見ルト云フノハ困難ナコトカト存ジマス、家督相續ニ於テ五千圓未滿ノ場合ニ課稅シナイト云フノハ、或ル意味ニ於キマシテ一般大衆ノ、家產ト云ツテハ語弊ガアルカモ知レマセヌケレドモ、家ノ生活ヲ維持シテ行ク必要ナ分ニハ相續稅モ課稅シナイト云フ趣旨カラ出來テ居ルノデアリマシテ、ソレ以上ノ場合ニ於キマシテハ稅率ニ於テ相當階級ヲ設ケマシテ適當ニ課稅スル、斯ウ云フ風ナ行キ方ノ外ハナイカト存ジテ居リマス

○子爵大河内輝耕君 私ハ私是デ質問ハ止メテ置キマス、他日内務省ノ政府委員ノ方ニ二三點伺ヒタイト思ヒマス

○委員長(伯爵林博太郎君) 野村君ノ御質問ハ長ウゴザイマスカ

○野村德七君 イヤ、極ク簡單デゴザイマス

○委員長(伯爵林博太郎君) ソレデヤ野村君

○野村德七君 現行法ニ依リマシテ扶養家族ヲ同一戸籍ニアル者ニ限ツテ居ルヤウデアリマスガ、改正法デハドウ云フ風ニスル御積リデアリマスカ、ソレカラ同一戸籍ニ限ラレルト云フ理由ハ一體ドウ云フノカ、ソレカラ親子等デ規定スル意志ハアルカナイカ、此ノ三ツ御尋ネシマス

○政府委員(大矢半次郎君) 改正案ニ於キ

マシテモ同一戸籍内ニ限ツテ居ルノデアリマシテ、戸籍ガ別ニナツテ居レバ我ガ國ノ家庭制度カラ致シマシテモ自ラ經濟ガ達ツテ來ルデハナカラウカ、同一戸籍ノ場合ニ初メテ同一經濟圈内ニ在ルト見ルベキダト、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、ソレデ親子ノコトデアリマシテ、要スルニ分類所得稅ト

ウデスカ

○政府委員(大矢半次郎君) 所得稅ニ於キマシテ綜合所得稅デ所得金額五千圓以上ノモノニ課稅シマスケレドモ、分類所得稅ハ高イ所得者モ少額所得者モ課稅スルト云フコトデアリマシテ、要スルニ分類所得稅ト

綜合所得稅ト兩方合セテ、其ノ人ノ負擔力ニ應ジタ課稅ヲスル、斯ウ云フ風ニナツテ居ルノデアリマシテ、若シモ相續稅ニ於キマシテモ、此ノ度ノ所得稅ノ制度ノヤウナモノヲ採リマシタナラバ、或基礎控除額、免稅點ヲ設ケテ、ソレ以上ハ一律ニ百分ノ十

ナラ十デナシニ、更ニ五萬圓トカ十萬圓以

上ノ相續財產ノアル場合ニ超過累進稅デ課

稅スルト云フツノ行キ方ニナルカト存ズ

カラウカト存ジマシテ、別ニ他ノ場合ト區

利マスト云フト、綜合課稅ヲ受ケマス個人ノ

總所得金額ガ一萬圓以下デアリマスト、其ノ

所得中ノ勤勞所得ニ付テ十分ノーラ控除スル、

是デハ一萬圓ト云フモノヲ境目ニシマシテ

是デハ

カラ大變熱心ニ質問ノアリマシタ中ニ、假ニ百萬圓ノ會社ガ五十萬圓ノ利益ヲ上ゲタ場合ニ、是ガモウ一ツ背後ニ同族會社ト云フモノガアリマシテ、「ホールディング・コンパニー」子會社トシテ其ノ會社ノ大部分ヲ包容シテ居リマシタ場合ヲ假定シマスト云フト、其ノ所得ガ一應同族會社、若シクハ「ホールディング・コンパニー」ニ入りマシテ、ソレカラ課稅ヲ受ケテ分配ヲ同族會社ナリ、又「ホールディング・カムパニー」ノ分配ヲ受ケテ、個人ノ所得ニナリマシテ、個人ガ綜合課稅ノ最高峰ニ於ケル稅率ヲ受ケタ場合ニハ、百萬圓ノ會社デ五十萬圓ノ利益ヲ擧ゲタ場合、乃至ハ二百萬圓ノ會社デ百萬圓ノ利益ヲ擧ゲタ場合、殆ド手ニ残ルモノハ公債ノ利息ニ等シキモノデアル、云フ最後ノ御研究ノ紙ヲ一枚残スヤウニナルノヂヤナイトモ四萬圓位シカジ百萬圓ノ利益ヲ擧ゲテ置キタカッタノデアリマスガ、是ハ別ニ質問スル意思ハナカッタノデアリマスガ、先程改メテ質問シタラドウカト云フノデシタガ、是ハ別ニ質問ト云フ考モナイノデ、サウ云フ例モアリハシナイカト云フコトヲ申上げタノデアリマス、併シ大臣ヘノ質問ハ後日ニ致シタトイマシテ、從ヒマシテ二十萬圓程度ハ配當シ得ルト思フノデアリマスガ、ソレガ「ホールディング・カムパニー」ニ参リマスレバ、其ノ中ニ對シテ又二割ノ課稅ヲ受ケ

ルカモ知レマセヌケレドモ、ソレニシテモ十數萬圓ノ利益配當ハ出來ルト、個人デ十數萬圓ノ配當所得ガアリマスルト云フト、稅ヲ納メテ手取七八萬カ十萬位ハ殘ルカト思ヒマス。

○野村德七君 御尤モデス、ソレモ承知シテ居ルンデスケレドモ、併シ實際ハ會社ハ保留ヲ致シマスシ、同族會社ナリ、「ホールディング・カムパニー」モ保留ヲ致シマスカラ、個人トシテ手許ニ殘ル金ハ結局投資金額ニ對シテ、サウ云フ結果ヲ見ルト云フヤウナコトニナシテ、結局ドウモ企業心ノ上ニ勇氣ヲ缺ク惧ガアルト云フ風ニ思フノデス、實際ノ計算上カラ、橋本君ガ實際ノ計算ヲ持ッテ居ラヌト、混同サレテ居ッテ、質問ノ頁ヲ一枚御残シニナシタノデハナイカト云フコトヲ申上げタノデアリマス。

○委員長(伯爵林博太郎君) 明後日ハ午前十時開會致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

出席者左ノ如シ	午後四時四分散會	國務大臣	政府委員
委員長 伯爵林 博太郎君	副委員長 男爵松岡 均平君	大藏省主計局長 大藏政務次官 大藏書記官	大藏省主計局長 大藏政務次官 大藏書記官
委員 公爵島津 忠重君	同 同	木村 正義君 植木庚子郎君	木村 正義君 植木庚子郎君
侯爵細川 護立君	同 同	谷口 恒二君 田中 豊君	谷口 恒二君 田中 豊君
侯爵筑波 藤麿君	同 同	大矢半次郎君 山田 義見君	大矢半次郎君 山田 義見君
子爵青木 信光君	松隈 秀雄君	池田 勇人君	池田 勇人君
子爵大河内 輝耕君			
子爵八條 隆正君			
子爵高橋 是賢君			
子爵三島 通陽君			
中川 健藏君			
男爵赤松 範一君			

昭和十五年三月二十一日印刷

昭和十五年三月二十三日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局